詳細分布調査報告書

横田町の遺跡Ⅳ

—馬木地区—

2001.3

島　根　県

横田町教育委員会

例　　言

1．本書は、平成12年度、国庫・県補助事業として横田町教育委員会が実施した町内遺跡詳細分布調査報告書である。

2．本調査は、横田町馬木地区内（55.83㎢）を実施した。

3．調査体制は次の通りである。

調査主体　横田町教育委員会　教育長　浅野俊夫

調査指導　島根県教育庁文化財課　木原　明（国選定保存技術保持者）　杉原清一（横田町文化財専門委員）

調査担当　高尾昭浩（横田町教育委員会）

調　査　員　安部　英（横田町文化財専門委員）

調査補助員　福田貴美子（横田町教育委員会）　石原達也(同)　千原恵子(同)　若槻芳充

事　務　局　中沢光政（横田町教育委員会教育次長）　井上賢治（同次長補佐）

4．本書の分布地図は、島根県の承認を得て森林基本図（1/5,000）の地図を1/15,000に縮小して使用した。

5．埋蔵文化財包含蔵地は、その種類によって6大別し、赤色の記号で表した。なお、その種類が2種類以上にわたって重複するときは、その主要なもので代表されている。

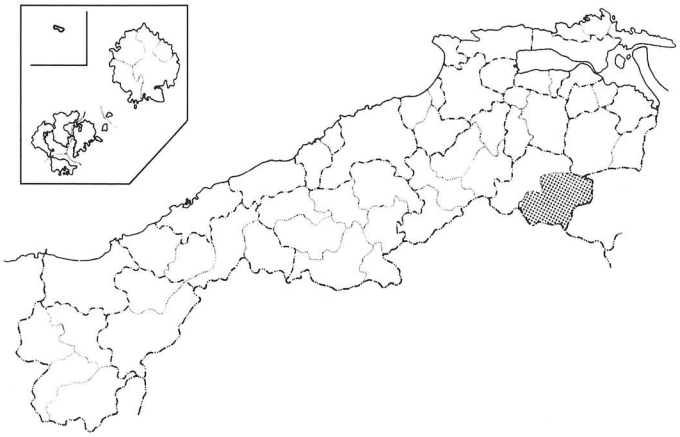
6．本書の遺跡番号は、島根県遺跡地図番号を踏襲している。

7．本分布調査は踏査による地表面の観察調査によるものである。したがって、本書に掲載されている遺跡のほかにも存在する可能性がある。

8．調査にあたって、次の方から協力を受けた。記して謝意を表す。

安部好道　足立孝二　糸原稲美　糸原武徳　石原照雄　家熊義治　内田寛一　小早川清利
川角一則　柏　利徳　才木和喜　戸屋清利　長瀬洋一郎　吉川忠良　山脇善吉　森山富雄
立石純司　安原国男　原田二朗　早戸義雄　藤原武治　松原幸子　渋田貞夫　村尾明利

9．調査により作成した遺跡台帳は、横田町教育委員会で保存している。



目　　次

調査区位置図 …… 1

遺跡一覧表 …… 12

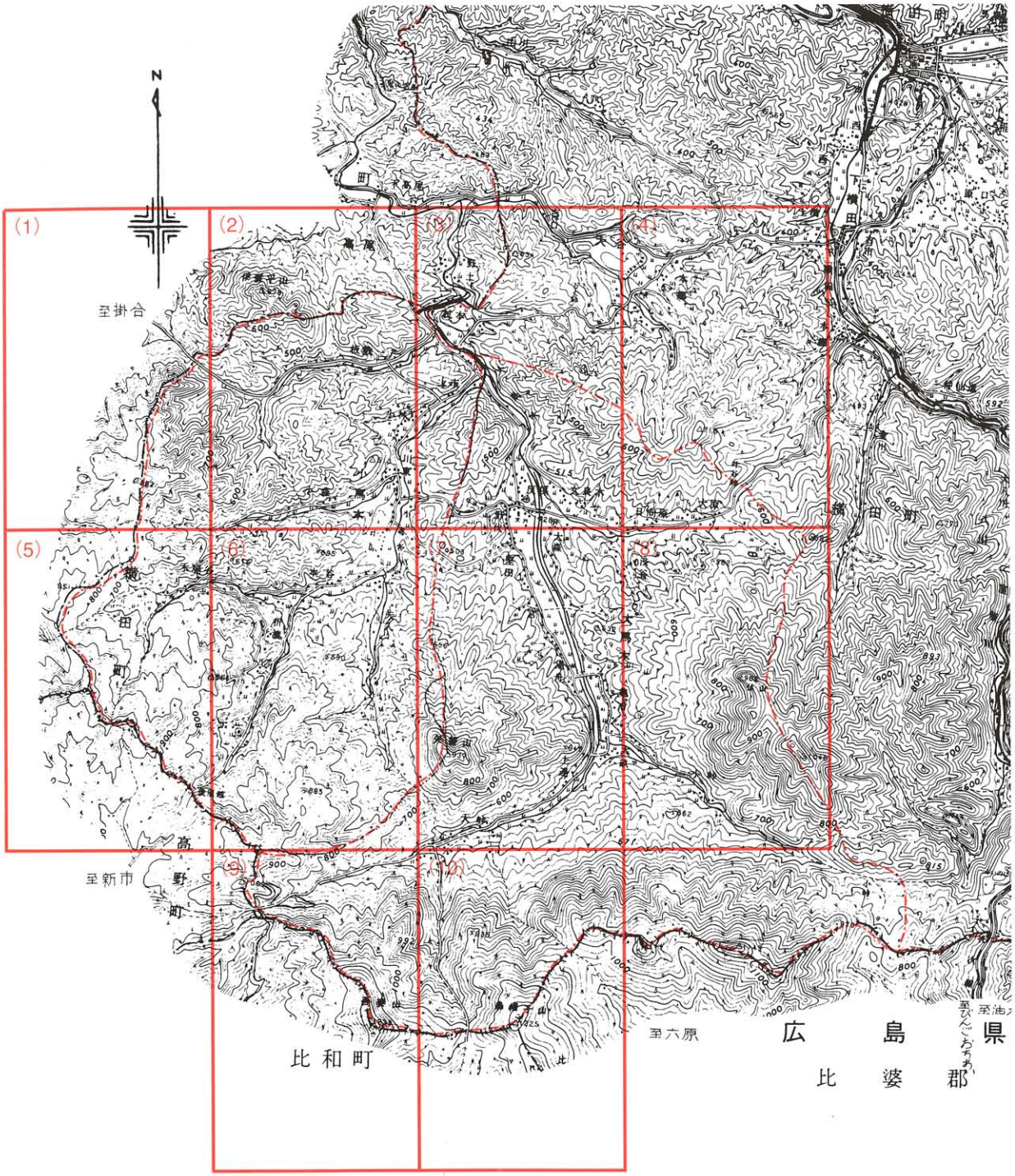
立地と遺跡分布の概要 …… 16

主な遺跡 …… 19

遺跡数集計表

	集落・散布地	古墳・横穴	古墓・経塚	城館砦跡	寺社地跡	生産遺跡	その他	計
旭	6(2)	2(2)		1	1	2(1)		12(5)
女良木		2(2)		1(1)		2		6(3)
大馬木第一本郷	1(1)		1			14(1)	1	17(2)
大馬木第二本郷			1	2(2)		20(2)		23(4)
堅田・野伏	2(2)				1	3(3)		6(4)
反保	6(1)	3(2)	1		1			11(3)
大馬木	15(6)	7(6)	3	4(3)	3	41(6)	1	74(21)
本谷	2(2)	1(1)	1			18(4)	1	22(7)
矢入中原		6(5)				19(1)		25(6)
小森	1(1)	1(1)		1	1(1)	3(1)		6(4)
小馬木本郷	4(2)	2(2)	3(2)	1(1)	1(1)	3		11(5)
	7(5)	10(9)	4(2)	2(1)	3(2)	43(6)	1	70(25)
	22(11)	17(15)	7(2)	6(4)	3(2)	84(12)	2	144(46)

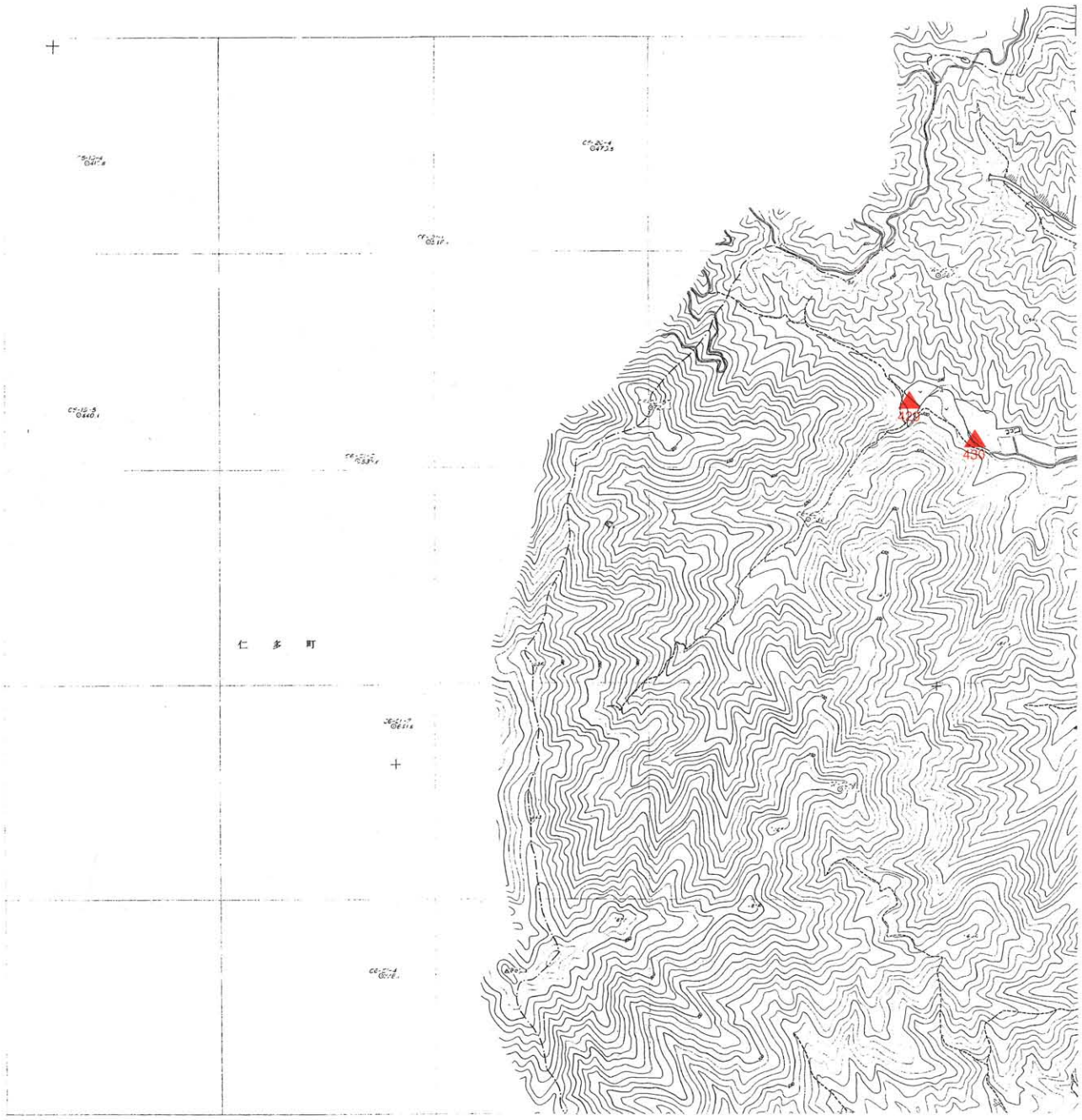
(　) 周知数



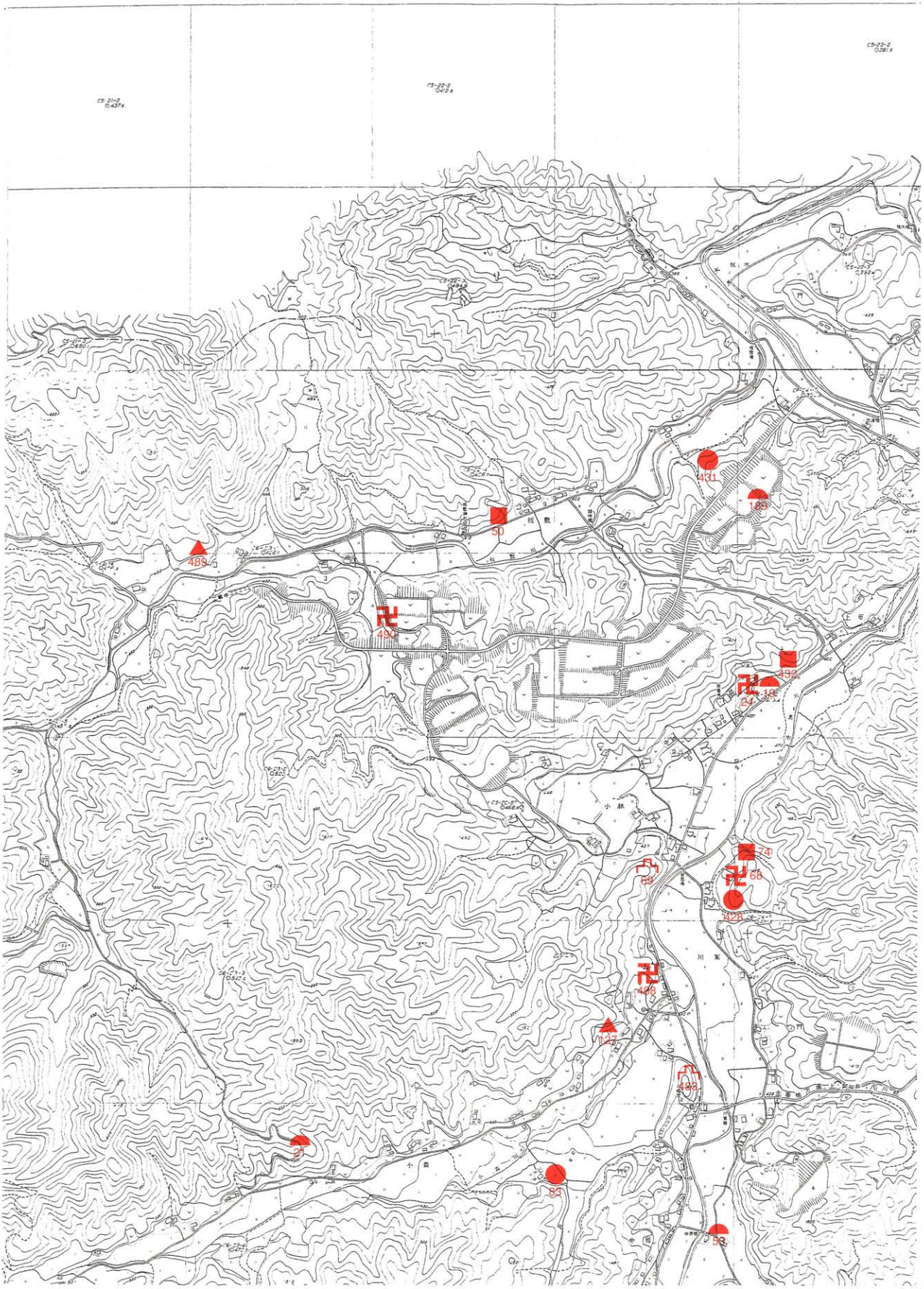
● 集落遺跡・遺物散布地
◠ 古墳・横穴墓
■ 古墳・経塚
凸 城砦跡・居館跡
卍 寺院跡
▲ 生産関係遺跡
○ その他

0 1000 2000 3000M

調 査 区 域 図（馬木地区）



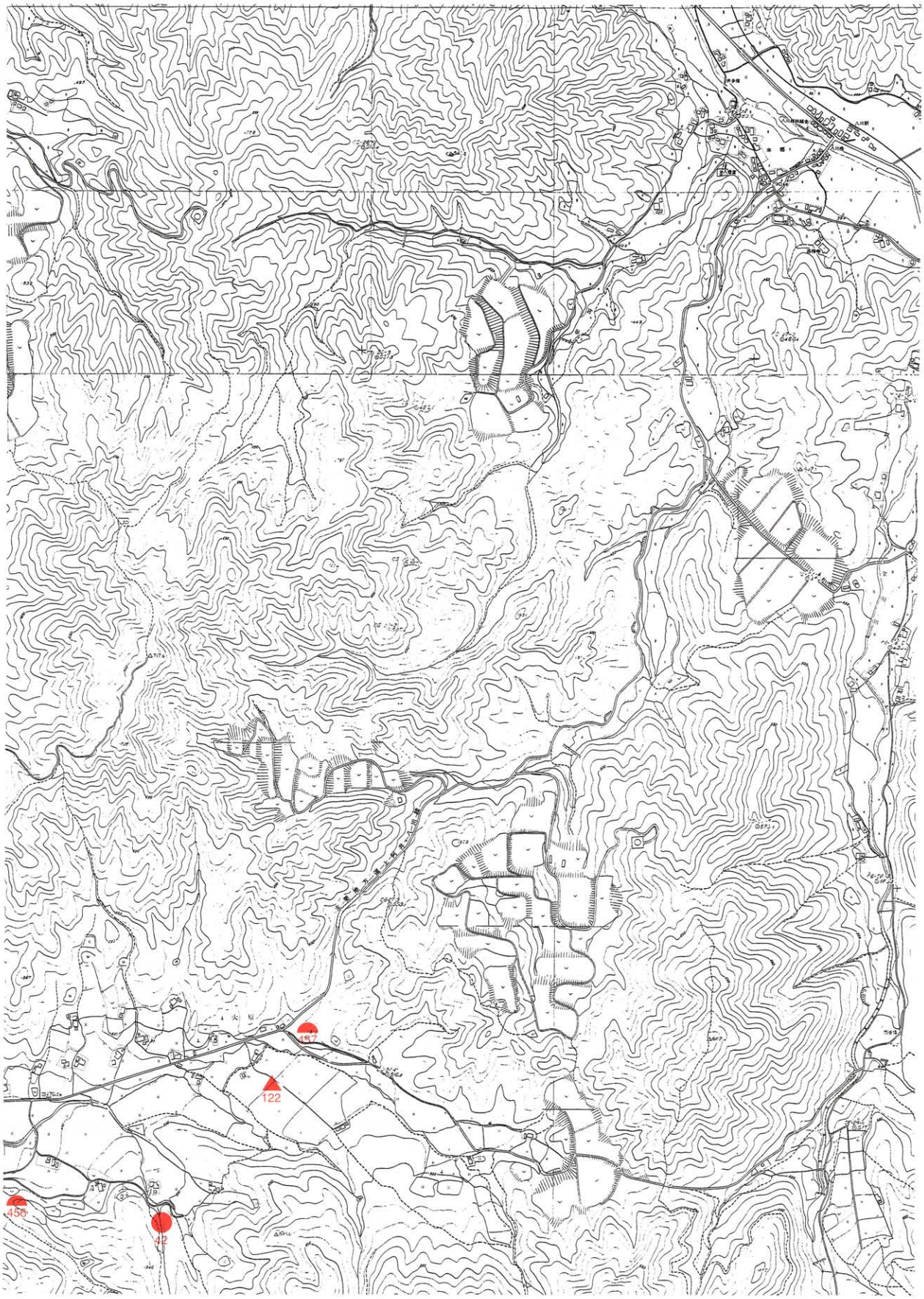
分 布 図（1）



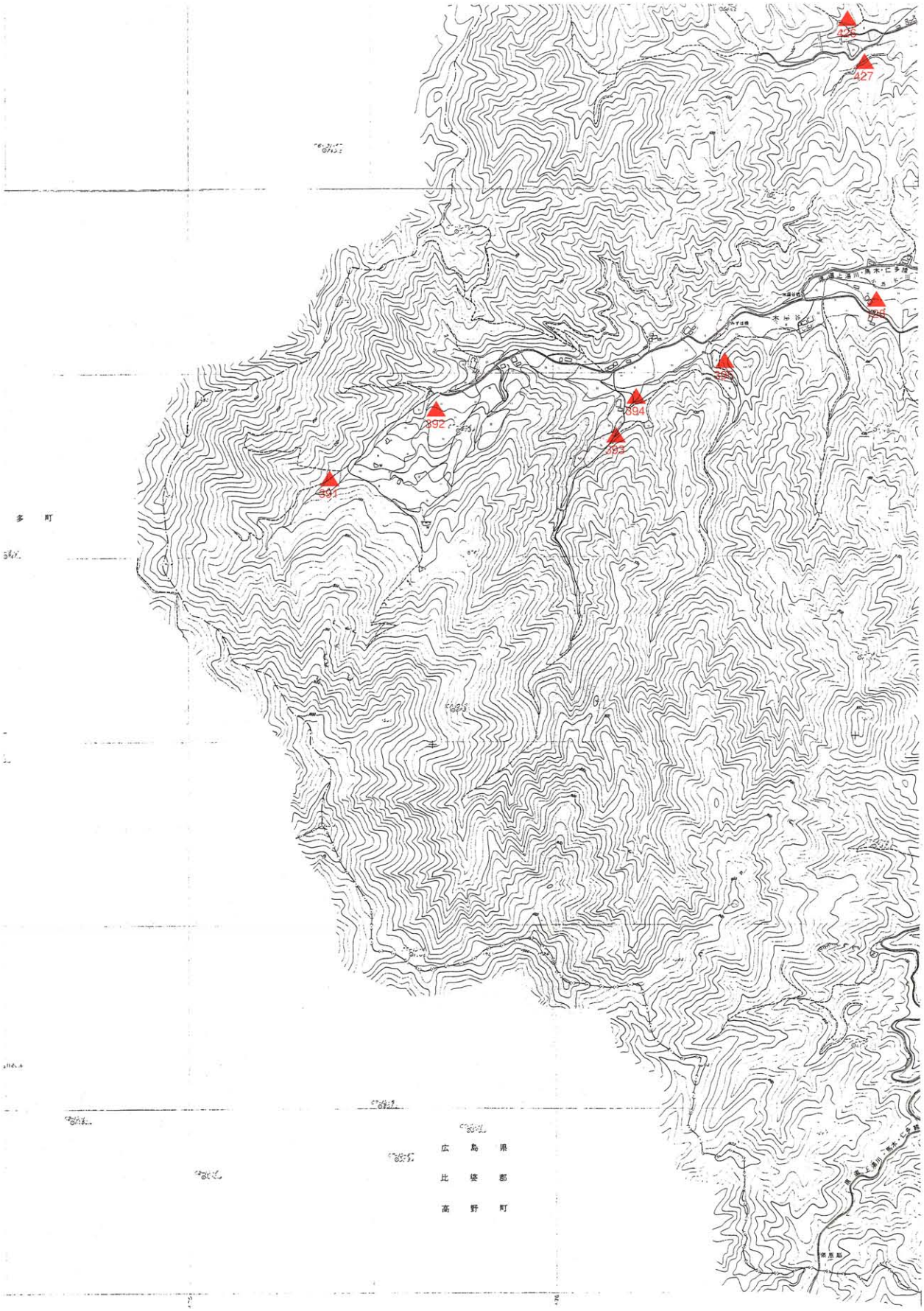
分 布 図（2）

467
121
19
460
461
463
462
464
465
466
470
471
195
56
136
458
459
469
468
12

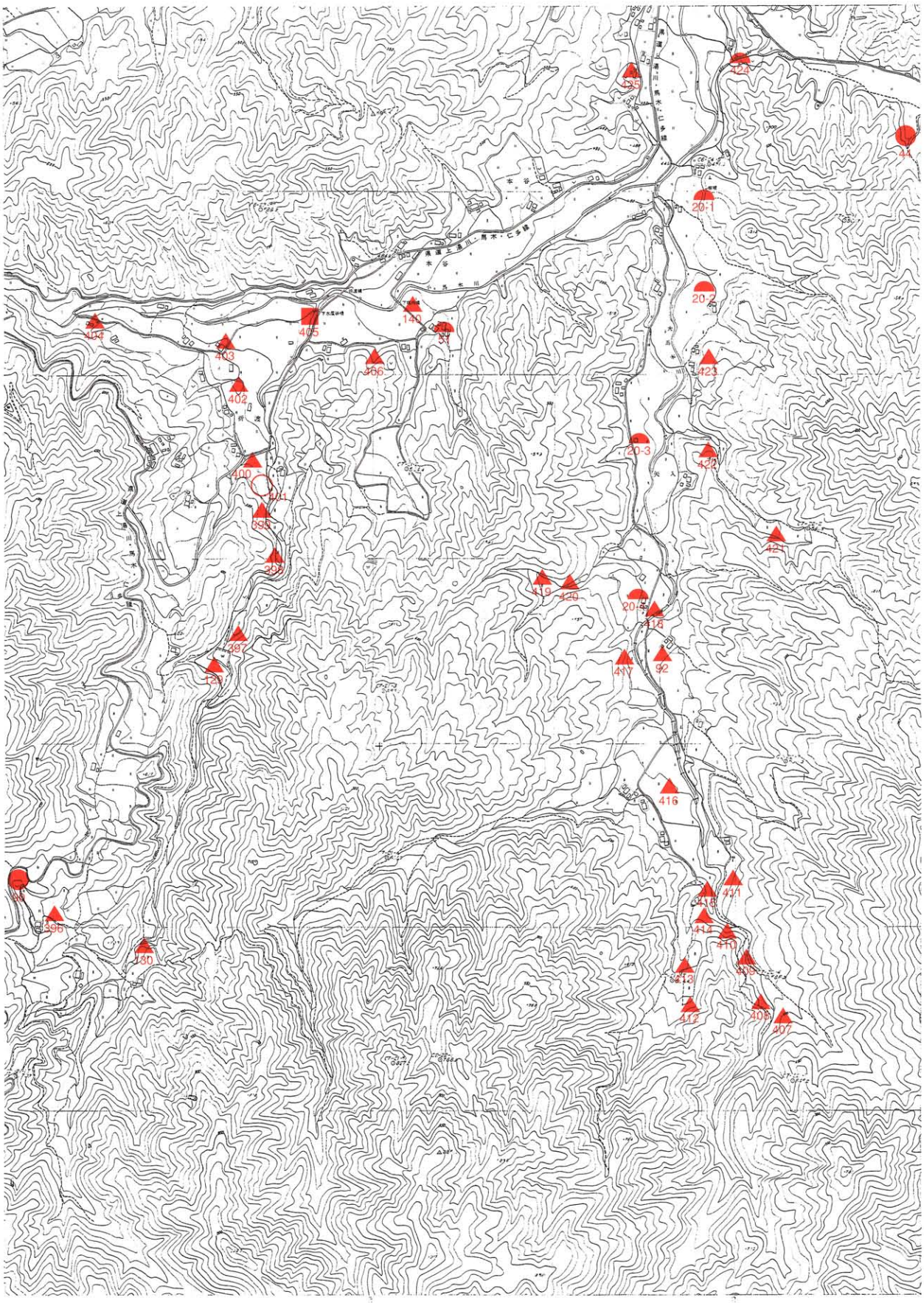
分 布 図（3）



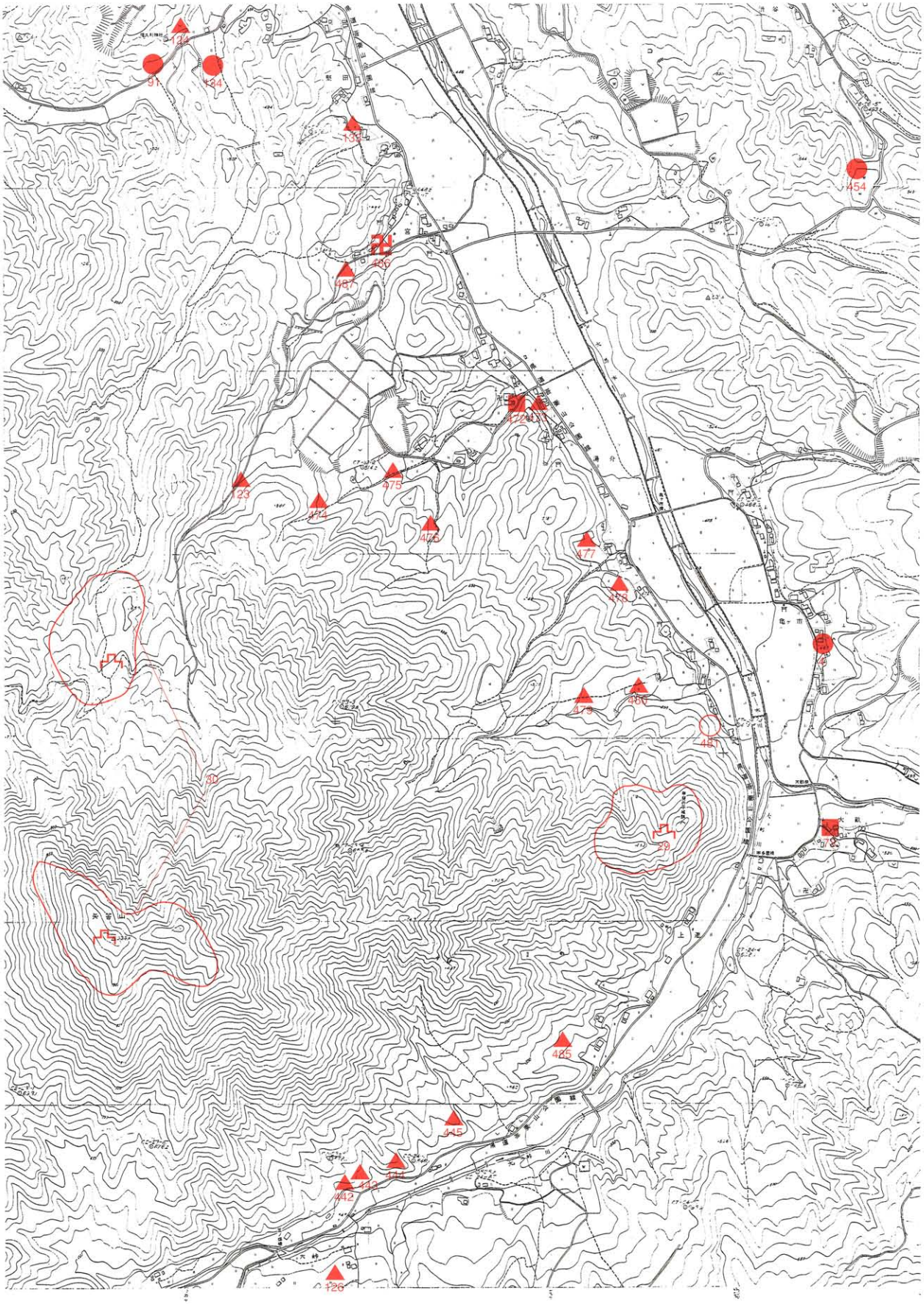
分 布 図（4）



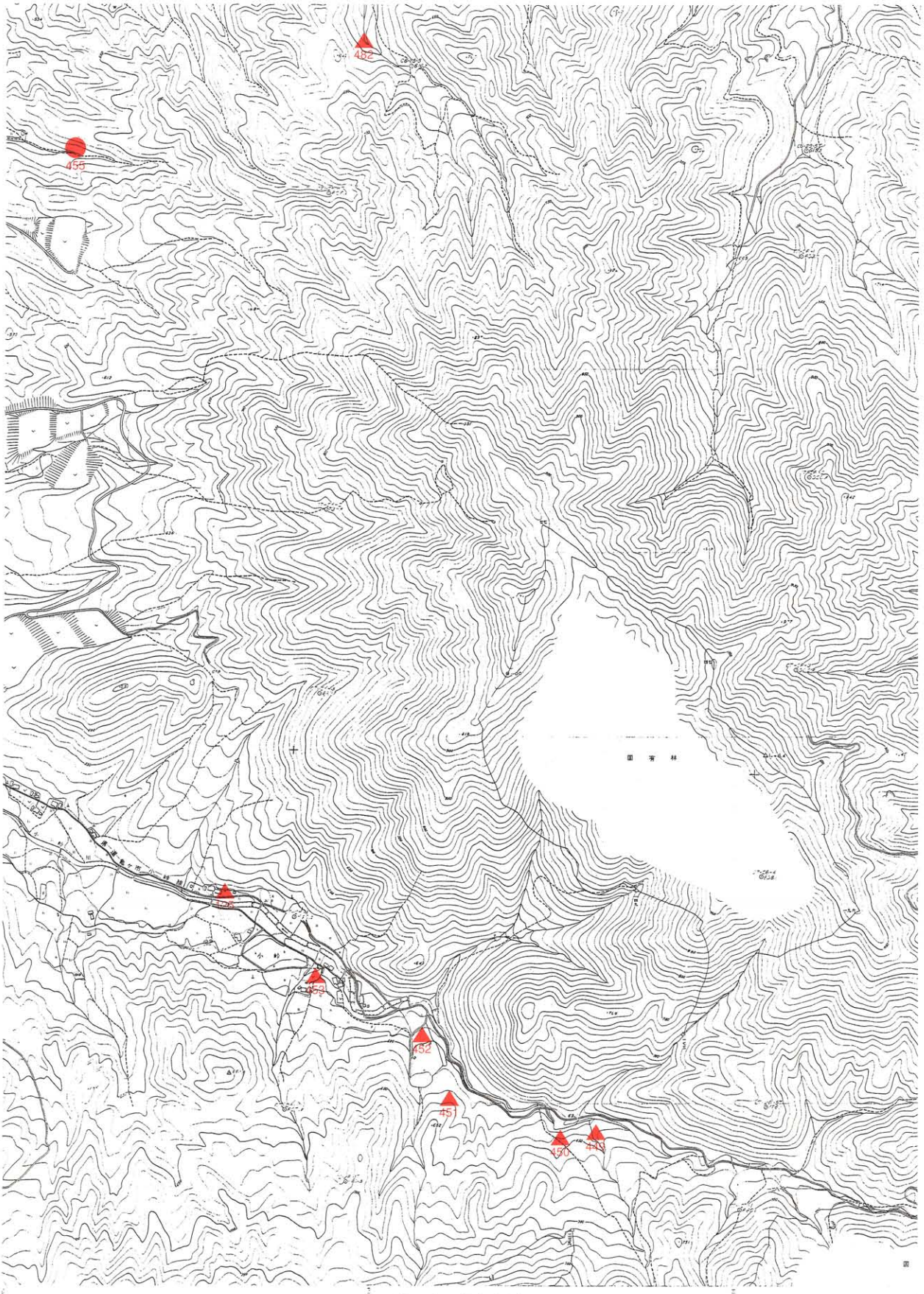
分　布　図（5）


135
424
44
20-1
20-2
404
405
140
51
403
366
423
402
20-3
400
401
395
397
421
416
420
20-4
418
397
92
129
416
411
414
410
395
130
413
409
412
408
407

分 布 図（6）

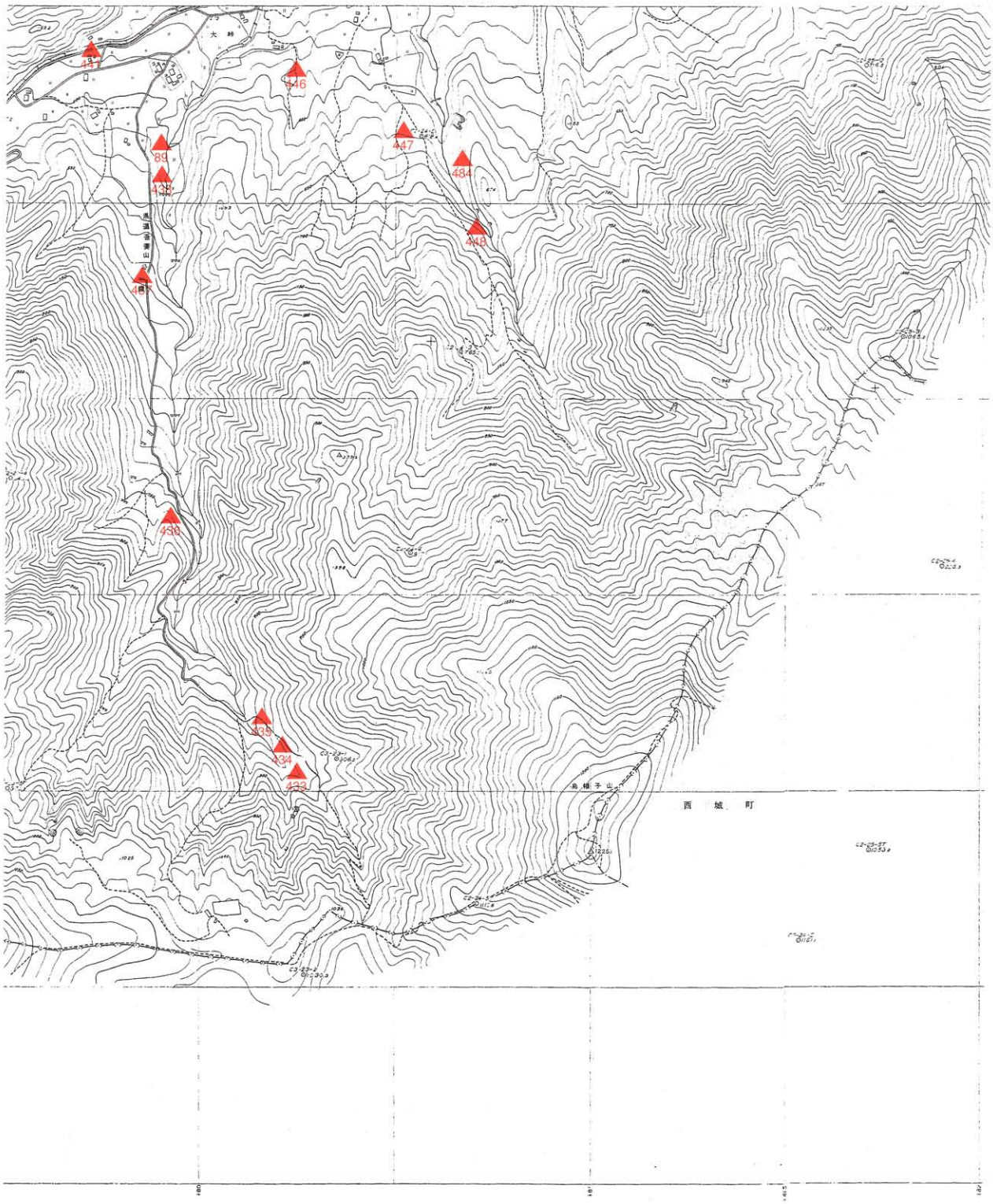

124
91
124
133
454
486
487
123
474
475
476
477
478
479
466
451
30
29
465
445
442
443
444
426

分 布 図（7）



分 布 図（8）

分　布　図（9）



分 布 図 (10)

遺　跡　一　覧　表

旭地区

遺跡番号	名　　称	種　別	所　在　地	現　況	概　　要	地図No.
42	曲谷遺跡	散布地	大原　大曲	山　林	縄文土器、黒曜石	4
43	渋谷遺跡	住居跡	渋谷	山　林	竪穴式住居、紡錘車、土師器	3
122	大原鈩跡	製鉄遺跡	大原　大原鈩床	水　田	絲原家操業	4
454	渋谷才ノ峠遺跡	散布地	渋谷　才ノ峠	山　林	土師器、須恵器散布、堤にて一部消滅	7
455	渋谷ナル林遺跡	住居跡	渋谷　渋谷ナル林	雑種地	土師器、須恵器、砥石、調査部分消滅	8
456	渋谷松ヶ谷横穴墓	古　墳	渋谷　松ヶ谷	雑種地	農地開発にて消滅	4
457	大原屋敷が谷横穴墓	古　墳	大原　屋敷が谷	山　林	横穴１基、消滅	4
458	日向原狸谷遺跡	散布地	日向原　狸谷	水田他	土師器散布	3
459	渋谷松本遺跡	散布地	渋谷　松本	山　林	土師器散布	3
468	渋谷砦跡	城　郭	渋谷　向殿	山　林	長瀬氏より城山と伝え聞いているとのこと、大半消滅	3
469	坊徳院跡	寺院跡	渋谷　向垣内	墓　地	「坊」、「坊丸子」などの字名を残す	3
482	大原奥鈩跡	製鉄遺跡	大原　大原奥	山　林	野鈩様式、鉄滓	8

女良木地区

遺跡番号	名　　称	種　別	所　在　地	現　況	概　　要	地図No.
52	亀井古墳	古　墳	女良木　亀井	雑種地	横穴式石室、移築したものであり、詳細不明	3
135	女良木古墳	古　墳	女良木　家ノ上	水　田	横穴式石室、消滅	3
136	亀井城跡	城　郭	女良木　竹ノ土居	山　林	字名「竹ノ土居」と残す	3
470	女良木Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	女良木　家ノ上	畑	野鈩様式、鉄滓	3
471	女良木Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	女良木　家ノ上	水　田	野鈩様式？、鉄滓、ほ場整備にて消滅？	3

大馬木第一本郷

遺跡番号	名　　称	種　別	所　在　地	現　況	概　　要	地図No.
4	沢田宅裏遺跡	住居跡	亀ヶ市	水　田	杭、石斧他、遺構破損、調査後消滅	7
125	小峠鈩跡	製鉄遺跡	小峠　日向山	水　田	高殿様式、鉄滓、金屋子祠あり	8
449	小峠蔭地Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	小峠　蔭地	山　林	野鈩様式、鉄滓	8
450	小峠蔭地Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	小峠　蔭地	山　林	野鈩様式、鉄滓	8
451	小峠蔭地Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	小峠　蔭地	山　林	野鈩様式、鉄滓	8
452	小峠蔭地Ⅳ鈩跡	製鉄遺跡	小峠　蔭地	水　田	高殿鈩、鉄滓、戦時中に椀形滓掘り出す	8
453	小峠鍛冶屋跡	製鉄遺跡	小峠　鍛冶屋	雑種地	大鍛冶屋、水車跡あり	8
472	鉄師杠家墓	古　墓	湯舟　往還ノ上	墓　地	鉄師杠家の墓地	7
473	湯舟下鍛冶屋跡	製鉄遺跡	湯舟　苑屋	畑	大鍛冶屋跡、戦時中椀形滓を掘り出したという	7
474	湯舟中ノ谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	湯舟　中ノ谷	山　林	野鈩様式、鉄滓	7
475	湯舟中ノ谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	湯舟　中ノ谷	山　林	野鈩様式、鉄滓	7
476	湯舟滝ノ谷鈩跡	製鉄遺跡	湯舟　滝ノ谷	山　林	高殿鈩、鉄滓、涪塊が放置され埋没	7
477	湯舟鉄穴流本場	製鉄遺跡	湯舟　洗い桶	水　田	鉄穴流本場、現在水田下	7
478	湯舟上鍛冶屋跡	製鉄遺跡	湯舟　鍛冶屋	雑種地	湯舟谷鈩に関わる大鍛冶屋？	7
479	湯舟谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	湯舟　鈩	山　林	高殿鈩様式、鉄滓	7
480	湯舟谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	湯舟　鈩	山　林	高殿鈩、字名「鈩」と残す	7
481	大馬木番所跡	その他	湯舟　御番所跡	雑種地	字名「御番所跡」と残し、旧往還沿に所在	7

大馬木第二本郷

遺跡番号	名　　称	種　別	所　在　地	現　況	概　　要	地図No.
29	甲斐ノ平城跡	城　郭	上連　矢筈	山　林	山城	7
30	夕景城跡	城　郭	大峠　矢筈	山　林	馬来氏の山城	7
73	足立宅横古墓	古　墓	大畝　桃ヶサコ	宅　地	五輪塔２基、道路拡張で現在地に移転	7
89	大峠Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	大峠　大峠鑪	水　田	高殿鈩、発掘調査、大峠鈩を改称	10
126	五ノ畑鈩跡	製鉄遺跡	大峠	水　田	野鈩様式、鉄滓、消滅？	7
433	大峠Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	大峠　阿図馬	山　林	野鈩様式、鉄滓	10
434	大峠Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	大峠　阿図馬	山　林	野鈩様式、鉄滓	10
435	大峠Ⅳ鈩跡	製鉄遺跡	大峠　阿図馬	山　林	野鈩様式、鉄滓	10
436	大峠Ⅴ鈩跡	製鉄遺跡	大峠　阿図馬	山　林	高殿様式、鉄滓	10
437	大峠Ⅵ鈩跡	製鉄遺跡	大峠	山　林	野鈩様式、鉄滓、道路拡張にて半壊	10
438	大峠鍛冶屋跡	製鉄遺跡	大峠　道ノ下	雑種地	大鍛冶屋、戦時中に椀形滓を掘り出して販売したという	10
439	五ノ畑Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	大峠　下モ尻ノ谷	山　林	高殿鈩、鉄滓、涪塊を河川改修時に埋める	9
440	五ノ畑Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	大峠　下モ尻ノ谷	山　林	野鈩様式、鉄滓	9
441	五ノ畑Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	大峠　柳谷	水　田	高殿鈩様式、法面に鉄滓散布	10
442	大峠Ⅶ鈩跡	製鉄遺跡	大峠　矢筈	畑	旧枝木家宅横、鉄滓	7
443	大峠Ⅷ鈩跡	製鉄遺跡	大峠	山　林	野鈩跡、鉄滓、枝木家墓地前	7
444	大峠Ⅸ鈩跡	製鉄遺跡	大峠　ゴマ	山　林	野鈩様式、鉄滓、字名「ゴマ」ゴマ供養場？	7
445	大峠Ⅹ鈩跡	製鉄遺跡	大峠　山根上	山　林	高殿様式、鉄滓	7
446	大峠長野谷鉄穴流本場	製鉄遺跡	大峠　長野	山　林	近くに荒神杉がある。これが金屋子神？	10
447	大峠長野Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	大峠　長野	山　林	高殿鈩、鉄滓	10
448	大峠長野Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	大峠　長野	山　林	野鈩様式、鉄滓	10
484	大峠長野Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	大峠　長野	山　林	野鈩様式、鉄滓	10
485	大畝鈩跡	製鉄遺跡	上連　矢筈	墓　地	野鈩様式、鉄滓	7

堅田・野伏地区

遺跡番号	名　　称	種　別	所　在　地	現　況	概　　要	地図No.
91	井伏宮下遺跡	散布地	野伏　井伏宮下	山　林	土師器散布	7
123	大成鈩跡	製鉄遺跡	堅田　大成	山　林	高殿様式、鉄滓	7
124	井伏鈩跡	製鉄遺跡	野伏　井伏	雑種地	野鈩様式？、鉄滓	7
133	堅田窯跡	生産遺跡	堅田　竹ヶ花	山　林	瓦他、近代遺跡	7
134	野伏遺跡	住居跡	野伏　井伏	水　田	柱穴、土師器	7
486	谷本坊跡	寺院跡	堅田	宅　地	寺の後、仁多郡最初の小学校跡地でもあり	7
487	堅田鈩跡	製鉄遺跡	堅田	水　田	高殿様式？、鉄滓	7

反保地区

遺跡番号	名　　称	種　別	所　在　地	現　況	概　　要	地図No.
17	観音原横穴墓群	横穴墓	女良木　観音原	山　林	横穴墓５基以上、大半開口	3
18	袋尻古墳	古　墳	反保　袋原	山　林	円墳、横穴式石室	3
121	福禄寿鈩跡	製鉄遺跡	反保　袋尻	水　田	絲原家操業の角炉	3
460	反保Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	反保　家ノ上	山　林	野鈩様式、鉄滓	3
461	反保家ノ上古墳	古　墳	反保　家ノ上	墓　地	横穴式石室、古くから開口、墳丘墓地にて削平	3
462	反保摺原五輪塔	古　墓	反保　摺原	墓　地	五輪塔残欠１基	3
463	反保Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	反保　家ノ奥	山　林	野鈩様式、鉄滓	3

464	反保Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	反保　家ノ奥	山　林	野鈩様式、鉄滓	3
465	反保Ⅳ鈩跡	製鉄遺跡	反保　竹ノサコ	水　田	野鈩様式、鉄滓	3
466	反保Ⅴ鈩跡	製鉄遺跡	反保　竹ノサコ	畑	野鈩様式？、鉄滓、近くの屋号「卜蔵」という。鉄師卜蔵家の関係？	3
467	大勝寺跡	寺院跡	女良木　大勝寺	山　林	字名「大勝寺」と残す。本尊、妙綱寺に所在という	3

本谷地区

遺跡番号	名　称	種　別	所在地	現　況	概　要	地図No.
51	下垣内古墳	古　墳	下垣内　下タ垣内	山　林	横穴式石室	6
90	大鉄穴遺跡	散布地	折渡　大鉄穴	山　林	縄文土器、消滅	6
128	木屋谷Ⅰ鍛冶屋跡	製鉄遺跡	木屋谷　割鉄原	水　田	桜井創業の大鍛冶屋で木屋谷神社は金屋子であるという。椀形滓は戦時中に掘り出す。「木屋谷鍛冶屋」を改称	5
129	下鍛冶屋跡	製鉄遺跡	折渡　東折渡リ	山　林	大鍛冶屋、絲原家操業という、一部消滅	6
130	上鍛冶屋跡	製鉄遺跡	折渡　東折渡リ	山　林	大鍛冶屋、絲原家操業という	6
140	深田鈩跡	製鉄遺跡	下垣内　深田	雑種地	野鈩様式？、鉄滓	6
391	木屋谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	木屋谷　西小屋ノ谷	山　林	野鈩様式、鉄滓	5
392	木屋谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	木屋谷　東小屋ノ谷	水　田	高殿様式、鉄滓	5
393	木屋谷Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	木屋谷　青木家ノ上	水　田	高殿様式、鉄滓、桜井家操業	5
394	木屋谷Ⅱ鍛冶屋跡	製鉄遺跡	木屋谷　鍛冶屋ノ上	水　田	大鍛冶屋、椀形滓、付近に「鍛冶屋床川端」等の字名有	5
395	木屋谷Ⅳ鈩跡	製鉄遺跡	木屋谷	水　田	野鈩様式、鉄滓	5
396	折渡Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	折渡　西折渡リ	水　田	野鈩様式？、鉄滓、鉄穴流しで消滅？	6
397	折渡Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	折渡　東折渡リ	山　林	野鈩様式、鉄滓	6
398	折渡Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	折渡　東折渡リ	山　林	野鈩様式、鉄滓	6
399	折渡Ⅳ鈩跡	製鉄遺跡	折渡　東折渡リ	水　田	野鈩様式？、水田畦に鉄滓	6
400	折渡Ⅴ鈩跡	製鉄遺跡	折渡　中山尻	水　田	高殿様式、鉄滓、水田にて詳細不明	6
401	小馬木番所跡	その他	折渡　旧番所ノ上	水　田	備後、俵越しの番所、近くに役人の長野氏の墓有り	6
402	木屋谷Ⅴ鈩跡	製鉄遺跡	木屋谷　家ノ上	水　田	後世の鉄穴流しで攪乱、法面鉄滓散布	6
403	木屋谷Ⅵ鈩跡	製鉄遺跡	木屋谷　道ノ下	宅地他	高殿様式、鉄滓	6
404	木屋谷Ⅲ大鍛冶屋	製鉄遺跡	木屋谷　割鉄原	水　田	付近一帯「割鉄原」と字名を残す	6
405	木屋谷五輪塔	古　墓	木屋谷	雑種地	五輪塔残欠１基、六地蔵等同所に有り	6
406	下垣内鈩跡	製鉄遺跡	下垣内　金屋子原	山　林	付近に「金屋子原」という字名を残す	6

矢入中原地区

遺跡番号	名　称	種　別	所在地	現　況	概　要	地図No.
20	矢入古墳群	古　墳	矢入		４基	6
-1	矢入１号墳	古　墳	矢入　山根	畑	墳形不明、横穴式石室、金輪２、切子玉３、刀２他	6
-2	矢入２号墳	古　墳	矢入　山根	雑種地	円墳、横穴式石室、刀２、須恵器	6
-3	矢入３号墳	古　墳	矢入	墓　地	横穴式石室、封土流失、一部のみ残存	6
-4	矢入４号墳	古　墳	矢入	雑種地	横穴式石室	6
53	中原古墳	古　墳	中原　岩田	水　田	埋没、横穴式石室	2
92	矢入鈩跡	製鉄遺跡	矢入　鈩原	水　田	高殿鈩様式、鉄滓、桜井家操業	6
407	矢入本谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	矢入　東矢入	山　林	野殿様式、鉄滓	6
408	矢入本谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	矢入　東矢入	山　林	野鈩様式、鉄滓	6
409	矢入本谷Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	矢入　東矢入	山　林	野鈩様式、鉄滓、林道にて半壊	6
410	矢入本谷Ⅳ鈩跡	製鉄遺跡	矢入　東矢入	山　林	高殿様式、鉄滓	6
411	矢入本谷Ⅴ鈩跡	製鉄遺跡	矢入　東矢入	水　田	高殿様式？、鉄滓、水田にて詳細不明	6
412	矢入コエゴ谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	矢入　西矢入	水　田	野鈩様式？、鉄滓	6

413	矢入コエゴ谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	矢入　西矢入	水　田	野鈩様式？、鉄滓	6
414	矢入コエゴ谷Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	矢入　西矢入	水　田	野鈩様式、鉄滓	6
415	矢入コエゴ谷Ⅳ鈩跡	製鉄遺跡	矢入　西矢入	山　林	高殿様式、鉄滓、貯水池として一部消滅	6
416	矢入本谷Ⅵ鈩跡	製鉄遺跡	矢入　タカマクリ	水　田	高殿様式、水田下に涪塊があるという	6
417	矢入Ⅰ鍛冶屋跡	製鉄遺跡	矢入　鍛冶屋原	山　林	大鍛冶屋、椀形滓、桜井家操業	6
418	矢入Ⅱ鍛冶屋跡	製鉄遺跡	矢入　矢入鍛冶屋川端	水　田	大鍛冶屋	6
419	矢入石頭Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	矢入　石頭	水　田	野鈩様式、鉄滓	6
420	矢入石頭Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	矢入　石頭	水　田	野鈩様式、鉄滓	6
421	矢入金屋谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	矢入　金屋谷	水　田	野鈩様式？、ほ場整備にて消滅	6
422	矢入金屋谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	矢入　金屋谷	水　田	野鈩様式？、ほ場整備にて消滅	6
423	矢入栃木鍛冶屋跡	製鉄遺跡	矢入　鍛冶屋	水　田	大鍛冶屋、「鍛冶屋」の字名の残す	6
424	中原幸ノ峠古墳	古　墳	中原　幸ノ峠	墓　地	横穴式石室１基、半壊	6
425	中原鈩跡	製鉄遺跡	中原　道ノ上	畑　他	野鈩様式、鉄滓	6

小森地区

遺跡番号	名　称	種　別	所　在　地	現　況	概　要	地図No.
21	小森坂本上横穴墓	横穴墓	小森　坂本上	山　林	人骨、須恵器、調査後消滅	2
83	竹ヶ鼻遺跡	散布地	小森　竹ヶ鼻	山　林	石剣出土、風土記の丘所蔵	2
127	小森鍛冶屋跡	製鉄遺跡	小森　鍛冶屋	山　林	鉄滓、字名を「鍛冶屋」と残す	2
426	小森Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	小森　小森鉄山	水　田	高殿様式、鉄滓、桜井家操業、金屋子神社あり	5
427	小森Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	小森　小森鉄山	山　林	高殿様式、鉄滓、砂防ダムにて一部消滅？	5
483	小馬木八幡宮砦跡	城　郭	小森　五十田	山　林	小馬木八幡宮境内地内、小林城関連砦	2
488	今寺跡	寺院跡	小森　今寺	畑	字名「今寺」と残す天保年間の六十六部石塔あり	2

小馬木本郷地区

遺跡番号	名　称	種　別	所　在　地	現　況	概　要	地図No.
19	上市古墳	古　墳	上市　寺地余	雑種地	墳形不明、横穴式石室、封土流失	2
24	杉谷寺跡	寺院跡	上市　寺地余	山　林	慶長年間河内氏建立という	2
44	井伏遺跡	散布地	井伏　鷹ノ巣	山　林	土師器、須恵器	6
50	板敷宝篋印塔	古　墓	板敷　塚ノ原	山　林	２基所在	2
68	瑠璃院跡	寺院跡	川東　瑠璃院	畑	馬来氏の菩提寺という	2
69	小林城跡	城　郭	小林　城山	山　林	馬来氏の山城	2
74	岩田山古墓群	古　墓	川東　岩田山	山　林	五輪塔残欠多数	2
189	白根垣内横穴墓	古　墳	板敷　白根垣内	山　林	横穴墓１基、調査後消滅	2
428	岩田遺跡	散布地	川東　岩田奥	畑　他	須恵器、土師器散布	2
429	板敷日向山鍛冶屋跡	製鉄遺跡	板敷　日向山	雑種地	大鍛冶屋？、詳細不明	1
430	板敷日向山鈩跡	製鉄遺跡	板敷　日向山	水　田	高殿鈩、鉄滓、金屋子神社有り、桜井家操業	1
431	板敷白根垣根内遺跡	散布地	板敷　白根垣内	水　田	土師器散布	2
432	上市石ノ峠古墓	古　墓	上市　石ノ峠	墓　地	五輪塔残欠２基	2
489	板敷鈩	製鉄遺跡	板敷　ハサラ	畑	高殿鈩、鉄滓、金屋子神社有り、桜井家操業	2
490	高城坊跡	寺院跡	板敷　高城坊	水　田	ほ場整備にて消滅？	2

立地と遺跡分布の概要

馬木地区は、横田町の南西部に位置し、総面積55.83㎢を測り、町全体の３割を占め八川地区に次いで町内２番目に大きな地区である。

南に位置する中国山地の脊梁、吾妻山を源流とする大馬木川が南北に流れ、形成された沖積地沿いに集落を形成する大馬木地区と、広島県高野町との境、俵原越を源流とする小馬木川沿いに集落を形成する小馬木地区との大きく２地域に分かれている。この２つの河川が馬木地区最北部で合流し、下流域仁多町の三成盆地で斐伊川と合流する。

馬木地区の耕地割合は僅か6.5％で、約90％余りの大部分を山林で占めており、町内いずれも同様に豊富な山林を背景に古来より鈩製鉄が盛んであった。

地質的に見ると、吾妻山がカンラン石玄武岩を母岩とするほかは、ほぼ全域が黒雲母花崗岩、閃雲花崗岩を母岩とする地質が広がり、この花崗岩類の風化層に含まれる磁鉄鉱が鈩製鉄に用いられる砂鉄である。盛んに操業された製鉄用砂鉄採取のため、馬木地域一様に鉄穴流しによる地形変貌、悪地形（バットランド）が見られる。このことは、横田の鉄師である杠家及び絲原家などが最初にこの馬木地区に居を構えたことも、良質な砂鉄が産することと豊富にある山林など大きな要因の一つであったことであろう。杠家は、記録に現れる横田の鉄師の中で最も古く、1536年（天文５年）に杠太郎左衛門が鈩を操業したことが「鉄山旧記」からわかり、本書の書き出しには、「昔は鉄師も多かったと見えて、一山に数ヶ所も鈩床がある。」と記述されるように、盛んな操業がなされていたことが推察され、矢入地区などはその例であると思われる。

製鉄遺跡の分布状況を見ると、大馬木第二本郷地区20ヶ所、矢入中原地区19ヶ所などを中心に、馬木地区全体で83ヶ所の分布が確認されるに至った。町全体の製鉄遺跡を比較してみると鳥上117ヶ所、横田16ヶ所、八川64ヶ所であり、鳥上に次ぐ確認数である。

歴史的に見ると、柏原遺跡から縄文早期の黄島式平行時期と考えられる山形押型文土器が、曲谷遺跡では縄文後期の遺物が出土している。弥生時代の遺跡は、いまだ調査事例がないが、渋谷遺跡の他で断点的に土器片が確認されている。

古墳時代に入ると、横穴墓としては古くから開口していることで知られる観音原横穴墓群が代表的なものである。しかしながら、他地区で多く確認されている横穴墓に比べ馬木地区では矢入古墳群、袋尻古墳をはじめとする横穴式石室の古墳が多く見られることが特質すべきことがらといえる。もともと、馬木地区は横田郷に属しておらず、三沢郷に属していたことから、他地区とは異なる独自な文化を育んできたものであろう。

中世には、山名満幸が、仙洞御料であった横田庄を横領したことに端を発して「明徳の乱」が起こったわけであるが、山名師氏の子であった摂津国馬来郷を領していた馬来氏綱（のち満綱）が功により将軍義満よりこの地を給せられ、馬木のほぼ中央である矢筈山（標高937m）の山頂に夕景城を築き領したと馬来氏の系図記録に伝えている。また、夕景城を北に３㎞ほどのところに小林城が築かれている。

これは、夕景城から時代の変化に対応して、天正７年に里山に移し城下集落も編成しようとしたもので、天正17年に毛利に下りこの地をあとにするまでの僅か10年間構えたものである。

旭地区

仏山から派生する尾根の突端に位置する渋谷には、縄文土器が確認された曲谷遺跡をはじめ、発掘調査がなされた渋谷遺跡では弥生末～古式土師器が確認される等、縄文時代より古墳時代にかけての営みが認められる。また、当地区は鉄師絲原氏が、最初に居を構えた地としても知られ、1633年（寛永10年）に大原でたたらの操業を開始した。鉄師絲原氏が居を構えた「湯の廻」には、当時庭園木として植えられた「キャラボク」が県指定天然記念物として指定されている。

地質的には、仏山麓にかけては、俗にいう「石ガランショ」地であるが、大馬木川に注がれる支線である女良木川沿いは風化花崗岩地であり、鉄穴流しや排砂溜めなど鉄穴手法で形成された水田地帯が広がっており、その大原水田地は、日本の棚田100選に選ばれている。

女良木地区

本地区は、南北に流れる大馬木川の支流である女良木川が合流する河岸段丘地に営まれた集落である。東西に伸びる丘陵を背に川を南に望む適地であり、古くより集落が形成されていたことが容易に想像される。

横穴式石室である亀井古墳、女良木古墳の２遺跡が古くより知られている。その他、中世末とみられる城館砦の亀井城跡が所在する。

大馬木第一本郷地区

大馬木川の２大支流である大峠川と小峠川が合流する周辺域であるこの地区は、小峠鈩をはじめ鈩製鉄に関連する遺跡が分布する。矢筈山より東麓に南北に大馬木川が流れ、この川沿いに備後に抜ける往還が走っており、湯舟に大馬木の番所が置かれていたことが知られている。

また、鉄師杠家が居を構えた地として知られ、八槇寺の隣接地に杠家の墓地が所在し、旺盛であった当時を忍ばせている。

大馬木第二本郷地区

馬来氏が矢筈山に築城した夕景城がよく知られている。山名氏綱（のち道綱）が功により将軍義満よりこの地を給せられ、摂津国馬来郷より来往してきたものである。俗にいう尼子十旗に数えられているもので、標高937メートルの頂上に築城されており、そのなかで最高峰のものである。

また、鉄師杠家の本拠地で、これに関わると見られる大峠鈩、五ノ旗鈩をはじめ多数の製鉄遺跡が確認されている。地形的に見ると吾妻山周辺地はカンラン石玄武岩並びに安山岩を主とする地帯であり、良質の砂鉄が産する地帯ではないが、その代わり、豊富な山林資源を背景に製鉄が行われたところである。多くの労働者が従事していたことを示す山内、無縁仏が随所で見られることからも伺い知ることができる。

堅田・野伏地区

大馬木川を東に望む丘陵ふもとに位置する。矢筈山を頂とする北に延びる丘陵にかけては鉄穴流しによる著しい地形変貌が見られ、字名を「大鉄穴」で表しているように、大規模な鉄穴流しが行われていたようである。このことを示すように矢筈山ふもとに所在する大成鈩付近から野伏遺跡にかけて地形図からも容易に読み取ることができる。

この鉄穴流しの影響からかあまり遺跡を確認することができない。

反保地区

現在の馬木の中心地であり、大馬木川の沖積地である。周知の遺跡は、観音原横穴墓群、横穴式石室１基と、鉄師絲原家が1917年(大正６年)より操業したことで知られる福祿寿鈩の３遺跡のみであったが、この調査により、横穴式石室１基、小規模な製鉄跡５基、五輪塔１基を追加確認した。

大馬木川に面して穿たれた観音原横穴墓群は開口しているものが多く、５穴以上、２支群が存在している。この横穴群の丘陵沿いに大谷に抜ける旧道が走り、山頂付近に「大勝寺」という寺院が所在していたとされ、字名を残こしている。

本谷地区

この地域は備後国の国境に位置し、その俵越の往還沿いに小馬木番所が置かれていた。また、西南は、鉄師桜井家の本拠である阿井に隣接しており、標高500mを越える深山で、縄文土器が採取された大鉄穴遺跡のほかは、一様に鈩製鉄に関わる遺跡が所在し、「割鉄原」、「鍛冶屋原」などの大鍛冶屋に関わる字名が多く残る。このことは、鈩終末期までこの地域では盛んに操業されていたことを示す。

また、調査の結果、木屋谷地区は、桜井家操業の高殿鈩跡、大鍛冶屋跡が点在し、折渡地区にかけては、絲原家操業の製鉄遺跡が占めている。このことから、近世末からは木屋谷にかけて阿井の桜井家の勢力圏で、折渡にかけては絲原家の勢力圏であったことがわかる。

矢入中原地区

矢入谷は、小馬木川の支流で南北に流れる矢入川の両岸に営まれた集落で、古くより４基の横穴式石室の古墳が知られていたが、新たに１基を追加確認した。いずれの古墳も後世により攪乱、半壊しており保存状態は芳しくない。

また、立地的には南を頂とし、東西の両岸を丘陵が走っていることからも伺い知ることができるように豊富な山林資源がある。地質的にも、風化花崗岩地帯であることから、至るところに鉄穴流し跡の形跡も見ることができる。これまでは、１ヶ所の製鉄遺跡が周知されているのみであったが、この調査によって新たに18基確認され、計19ヶ所の分布数となった。

小森地区

東西に細長く延びる谷あいに営まれた集落で、峠をこえると阿井に入る。このことから、この地区は、小森鈩を桜井家が操業していたことが知られ、字名に「小森鉄山」、「金屋子神社」、「金屋子原」などの製鉄に関わる字名を多く残している。

その他の遺跡をみると、林道拡幅工事に伴い調査された小森坂本上横穴墓、石剣が出土した「竹ヶ鼻遺跡」が知られる。

小馬木本郷地区

この地は、馬来氏が夕景城から時代の変化に対応して、天正７年に里山である小林に城を移したところである。小馬木川を隔てた城下集落を編成しようとしたもので、天正17年に毛利に下りこの地をあとにするまでの僅か10年間のみ構えたものである。

小馬木地区の中心である地域で、寺跡４ヶ所、古墓３ヶ所の他、横穴墓、散布地など小馬木川、板敷川沿いに確認することができる。

主　な　遺　跡

沢田宅裏遺跡

昭和32年、土地所有者が、山裾を削って畑地並びに水田として造成した際に杭、磨製石斧、弥生土器が検出されて注目されたものであり、古く昭和38年刊の「島根県遺跡目録」にも「沢田茂利宅裏遺跡」として搭載されている。

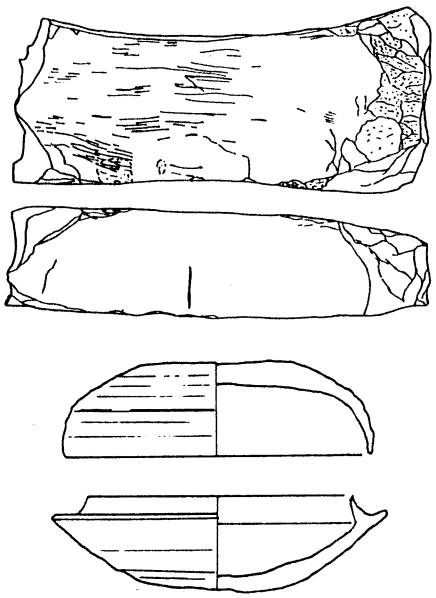
昭和56年、圃場整備事業に伴い、隣接する田畑について確認のトレンチ調査が行われ、土師器片２点、須恵器片１点のほか、染付け片など近世に係る遺物も検出された。また、掘立柱列の遺構が確認されたことからも、本遺跡で採取された磨製石斧、弥生土器も後世に攪乱された残損遺物であり、遺構や遺物包含層は失われていることが判明した。

渋谷ナル林遺跡

平成９年、島根東部地区公社営畜産基地建設事業に伴い、発掘調査が行われた「渋谷ナル林遺跡」は、標高1,010mの仏山から分岐する標高600m程の西北になだらかに延びる丘陵の南側中腹に位置し、本遺跡周辺には、ほぼ同年代である渋谷遺跡や縄文土器の散布地として知られる大曲遺跡も所在し、古くからの営みがあったことは間違いない。

調査区域が調整池にかかる僅かな面積であったため、林道で切られた丘陵側の半分のみが残存していた住居跡の調査が行われた。

約40cmのクロボク層を削平して平坦面を形成した簡易な建物で、柱穴や住居周囲に廻らす溝などの遺構を検出することができなかった。出土遺物は、黒灰色の焼痕跡を示すものが多く、須恵器は蓋坏が２～３個体分の破片を採取するのみであった。

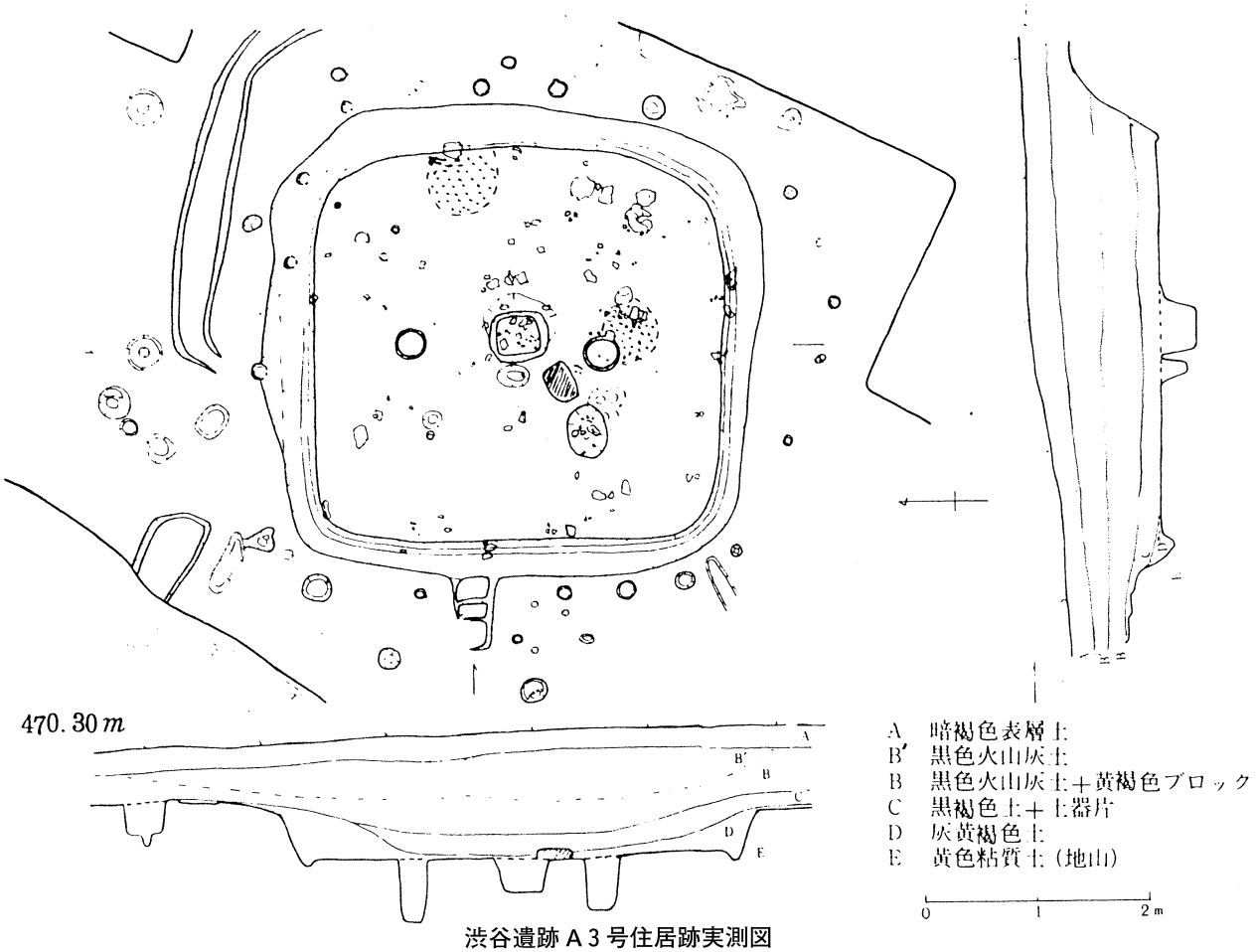


S=1/3
渋谷ナル林出土遺物実測図

また、凝灰岩の砥石が検出され、町内出土例では最大の長辺28cm、短辺10cm、幅５cmを計る。両サイドがかなり湾曲しており、かなり使い込まれたものである。大型の砥石であることや材質から、鉄斧のようなものを砥いだものであろうと推察される。

渋谷遺跡

旭地区渋谷の水田地帯の南側に長く延びている標高470mほどの低丘陵の突端部に位置し、水田からの比高約15mの平坦な頂部付近にあたる。周知の遺跡として、東方約500mの谷入口部には縄文土器の出土した曲谷遺跡や古墳時代の住居跡である渋谷ナル林遺跡などが知られ、鉄師絲原家が移り住み住居を構えたところでもある。



渋谷遺跡Ａ３号住居跡実測図

この渋谷遺跡では、３棟の住居跡が確認されたが、部分調査のため、未調査区域が広範囲あり10棟以上の住居跡が所在するものと思われる。

ここでは、一棟完全発掘されたＡ３についてみると、南北に1.7m間隔の主柱２穴を有する隅丸方形プランを呈し、側溝を伴う床面は3.60m×3.60mを計る。丘陵頂上部の比較的平坦な場所でやや低い地形に周囲が完全に掘り込まれた竪穴式住居である。掘り込みの壁高の最も高い東側で70cm、最も低い西側で30cmを計る。西側壁中央に三段の階段を掘り込んで出入り口をつくり、その戸側堤上に門柱状の柱穴を伴っていることが特徴的である。床面ほぼ中央に25×35cmの扁平長方形川石の据石があって作業台と見られる。それに接して床面中央には45×43cm、深さ33cmの方形ピットが掘られ、貯蔵穴と判断される。また、東壁中央よりに炭灰の散布と床面に弱い焼面が認められることから炉跡と判断されるが、南側主柱近くにも若干の焼土面と炭灰が認められた。戸外の外堤上には掘り方に沿ってやや不規則ながら小柱穴が配列し、さらに地形上手にあたる東～北部分では、その小柱列の外側に浅い周溝が添えられている。小柱列は上屋の外支柱であり、その外を周る側溝は戸外の表面水を除く排水溝と判断される。

甕形土器の口縁部は外反、直立、そして立ち上がり部は幅の大小はあるものの、いずれも複合口縁盛行期のもので、出雲海岸部における「小谷式」以前にあたると思われるが、一部にＬ字状口縁が一部みられ小谷式併行期の遺物もある。また、近隣区域からは須恵器の坏がやや立ち上がり部分が低いものの、提瓶の耳がしっかりしているなど、山本清編年のⅢ期に比定されるものものである。

袋尻古墳

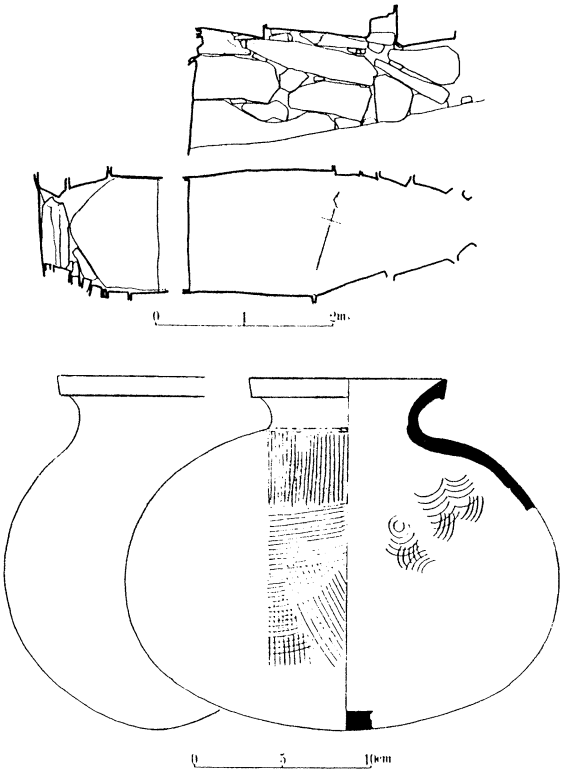
大馬木川を東に見下ろす丘陵斜面下方（水田面より約15mの高さ）で、自然地形を利用して斜面を削って土を盛った直径約５m、高さ約１mの円墳である。

内部構造は割石積の横穴式石室で、入口がややすぼむ玄室と羨道の区別がない無袖形である。

前の方が崩れているが、現全長は約３mあまりで、奥壁で幅1.3m、前の方で0.8mを測り、高さは流入土があるので詳細は不明であるが、約1.6mを測る。側壁は、待ち送り式に積んである。

大正初年の発掘といわれ、遺物は小形横瓶と甕の破片が若干出土している。小形横瓶は、通例の規格よりもかなりの小化され、長径と端径の差が少なくなっている。須恵器編年より第Ⅴ期に当たるものである。

無袖形の横穴式石室は出雲地方の平野部、主要古墳地帯に稀であるが、中国山地よりの山間部には多数所在し、仁多郡内においてもかなりの例をあげることができる。

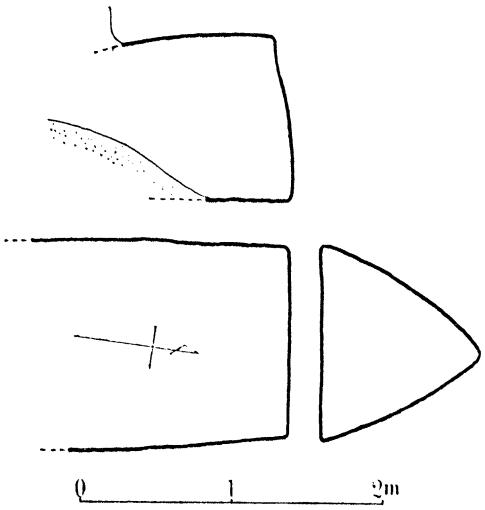


袋氏古墳及び出土遺物実測図

観音原横穴墓群

大馬木川を南西に見下ろす丘陵突端に所在する本遺跡は、かなり古くから開口し、知られている遺跡である。遺跡内の丘陵曽根沿いを八川大谷に越える旧道が走り、その道沿いに開口している。

一帯にかなりの数の横穴が残存する様子で、あるいは２群以上に分かれるかもしれないが、５基以上が所在する。開口している３基のうちの一つについてみると、開口後の崩壊も甚だしく流入した土砂によって詳細は不明であるが、長方形床面、側壁、天井の区別なく直線的にのびて上方で合し稜を残し、奥出雲でよく見られる俗にいう三角テント型のものである。



開口は相当古いようで、遺物については、太刀一口が出土したと伝えるのみで詳らかでないが、周知されている馬木地区の横穴墓としては、最多数基の横穴墓群である。

矢入古墳群

矢入古墳群は、矢入地区内に４基点在しているものを総称して呼んでいる。ここでは、その中の１号古墳について記載しておく。

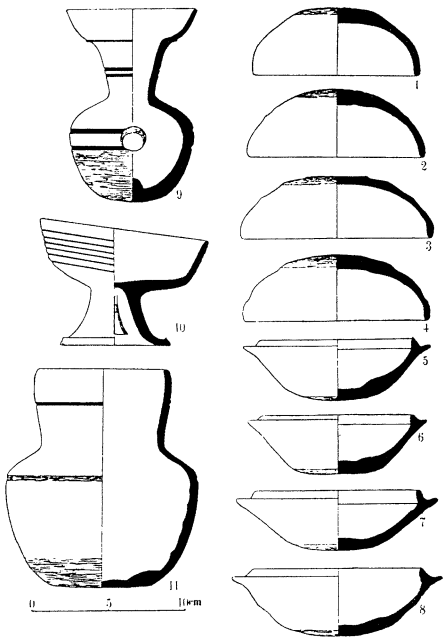
昭和27、８年頃発見されたもので、当時既に墳丘はなく、耕作中偶然に発見されたものである。奥行約４m、幅0.8m、高さ約0.8mの自然石積みの無袖形の横穴式石室であったようである。

出土遺物は、須恵器のほか、太刀２口、金環２、切子玉（水晶製）３玉であった。

遺物の配置は、人骨は消失していたものの、石室ほぼ中央の両側に太刀一口ずつ石室とほぼ平行に並べられ、遺骸の頭部と推察される壁のほぼ中央に金環と切子玉が横に並べられ、室外からは、壷などの供献された須恵器が確認された。

須恵器の蓋の外側には沈線もなく、身の方も蓋受けの立ち上がりが短く、また内に倒れ、かなり便化度の強いものであり、山陰編年のⅣ期にあたる。

以上、この古墳は、岩屋寺山横穴墓と共に横田町内では例の少ない貴重な副葬品を配した古墳として知られる。



２号墳出土遺物

１号墳出土遺物

大峠Ⅰ鈩跡（大峠鈩跡を改称）

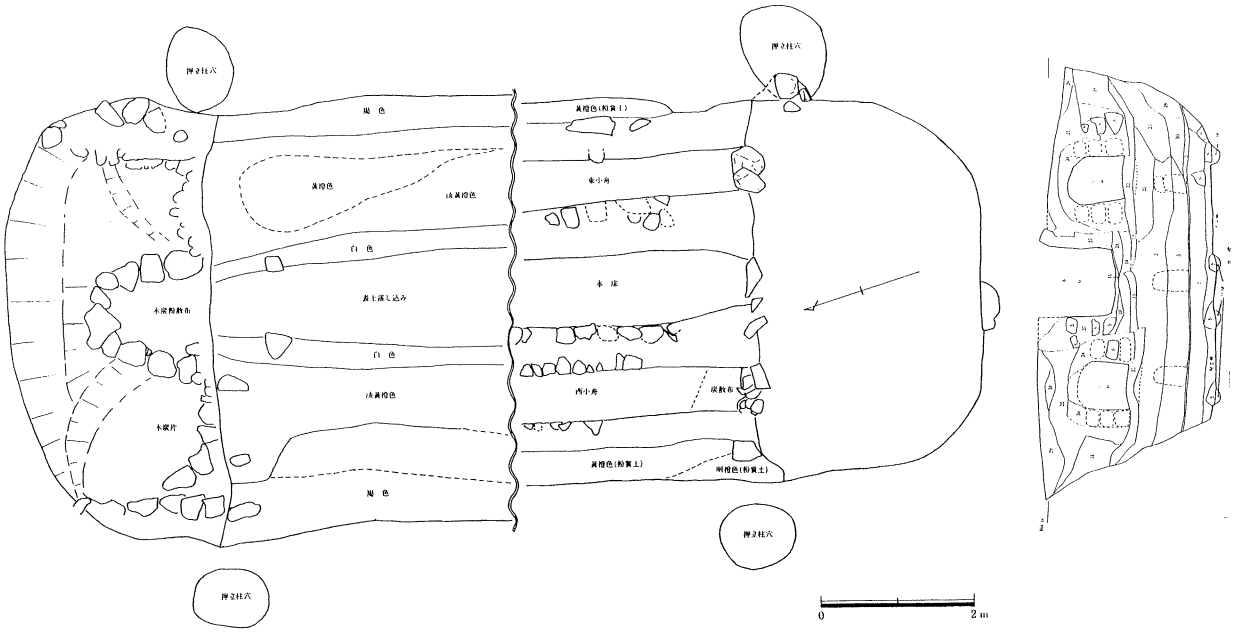
昭和59年、圃場整備事業中に発見されたことに端を発し、緊急発掘調査が行われたこの大峠Ⅰ鈩跡は、横田町の最南端、比婆道後帝釈国定公園吾妻山の北麓の大峠地区に所在する。標高600m余りに位置し、字名を「大峠鑪」と残していた。

この大峠鈩跡周辺には、小字名「鑪谷」「鉄山」「鉄穴谷」「須釜」「古屋敷」「四軒小屋」など、鈩製鉄の跡を示すと思われるものが多く見られるほか、大峠鈩山内で働いていた人々のものとおもわれる無縁仏が点在している。

鈩の炉床はほぼ南北に角丸長方形で、これにかかる高殿建屋の主柱であり、炉床構築の基準となる４本の押建柱について、その全てが確認された。柱南距離は西の山手側で6.9m（13尺）、東の谷側で7.5m（15尺）、東西間は6.6m（11尺）であり、谷川に開く台形である。この４本のうち特に南西隅の押立柱が金屋子神を祀り、諸基準となる「元山押立」であったと推察された。

考古地磁気測定年代では、AD1,710±20年に相当する数値が示され、この年代頃に相当する古文書記録についてみると、大馬木に居住し、中世以来の鉄師である杠家の記録（俗に杠日記とよばれ、写本として残されている）によると、1719年（享保４年）に「今年大峠山五ノ旗山立木一作伯州外浪吉良兵衛へ売ルニ付大峠床ニ鈩打秋吹立ル湧能　杠又右門長野尾ニテ鍛冶屋一軒仕山形割ト云長割

也」。また、1743年（寛保３年）に「当三月安部清次名請ニテ大馬木村大峠鈩打半先納御免也　十一月大峠吹立ル八月坂根吹仕舞ト申ス処十月迄坂根鈩吹申ニ付十一月初旬ヨリカシヤ二軒引大峠ニテ仕事」と記載されている。大峠鈩のあたりは、この杠氏の本拠地であり、いずれかに該当する鈩と推察される。



大峠たたら跡平面図

夕景城跡

夕景城は、大馬木と小馬木の境にあたる南北に延びる丘陵の山頂、矢筈山に位置する。この城は馬来氏が築城した城としてよく知られている。

山名満が、仙洞御料であった横田庄を横領したことに端を発して「明徳の乱」が起こったわけであるが、山名師氏の子であった摂津国馬来郷を領していた馬来氏綱（のち満綱）が功により将軍義満よりこの地を給せられ、既述の山頂に夕景城（感目山：寒峰山）を築き領したと馬来氏の記録は伝えているようである。俗にいう尼子十旗に数えられているもので、麓からの比高約500mという急峻な山の頂で、標高937mの高峰に築かれたものである。

東西に２つの峰があり、それぞれに城郭が築かれている。東側に築かれた城郭は、削平のみによって形成されているが、西側の峰に築かれた城郭は櫓台、土塁及び枡形によって形成され、時代的な差が認められるようである。

西側先端に築かれた桝形の虎口をはじめ、各郭にも虎口が認められ、主郭の西側には石垣の根石のコーナーが施されている。

この城郭の特徴は主郭の東側に二重掘切に面して築かれた櫓台と、それに続く土塁を築いていることである。このように櫓台を中心に築かれた城郭は、三沢氏の藤ヶ瀬城も同様である。

また、夕景城を北に３kmほどのところに小林城が築かれている。夕景城から時代の変化に対応して、天正７年に里山に移し城下集落も編成しようとしたもので、天正17年に毛利に下りこの地をあとにするまでの僅か10年間構えたものである。

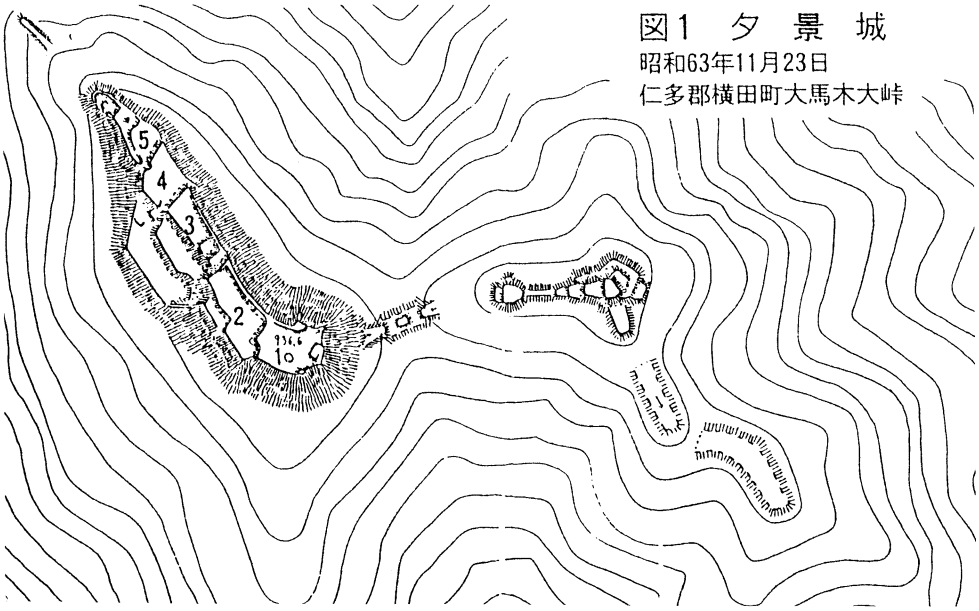


図1　夕　景　城
昭和63年11月23日
仁多郡横田町大馬木大峠

古　墓（宝篋印塔、五輪塔）

馬木地区の石造墓塔に着目すると保存状態のよいものは少ないが、7ヶ所、12基以上が確認された。保存状態があまり芳しくないため、セット関係などの詳細がわからないものが多く見られる。

また、岩田山古墓群などのなかには石材が石灰岩のものがみられる。これは備後東城産とされ、横田町では16世紀前半の限られた時代に用いられたようである。

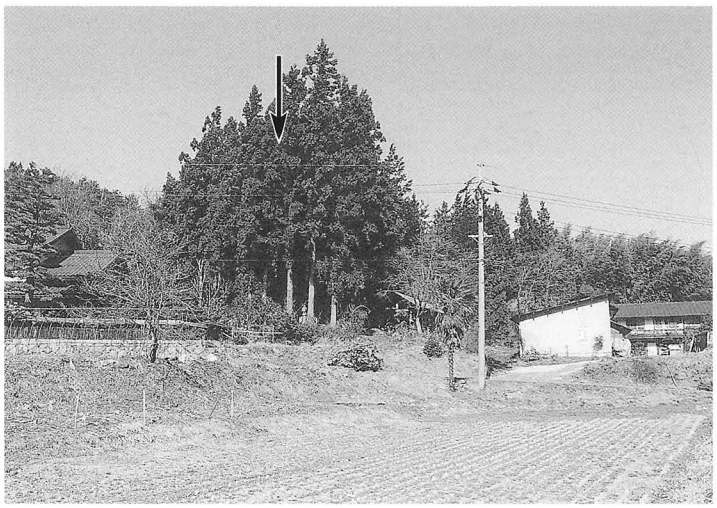
■参考文献

1889年　明治22年編成　地籍地図（切図）　村役場
1917年　仁多郡誌　仁多郡役所
1927年　島根県誌　島根県史編纂委員会
1968年　横田町誌　横田町誌編纂委員会
1977年　大日本地誌大系　雲陽誌　雄山閣
1982年　沢田宅裏遺跡発掘調査報告書　横田町教育委員会
1982年　渋谷遺跡発掘調査報告書　横田町教育委員会
1985年　大峠たたら跡発掘調査報告書　横田町教育委員会
1990年　奥出雲横田とたたら　高橋一郎
1994年　柏原遺跡発掘調査報告書　横田町教育委員会
1992年　横田町の遺跡Ⅰ（横田地区）　横田町教育委員会
1997年　渋谷ナル林遺跡発掘調査外報　横田町教育委員会
1999年　横田町の遺跡Ⅱ（鳥上地区）　横田町教育委員会
2000年　横田町の遺跡Ⅲ（八川地区）　横田町教育委員会
中世城郭研究第6号　中世城郭研究会

矢入古墳群（1号墳）

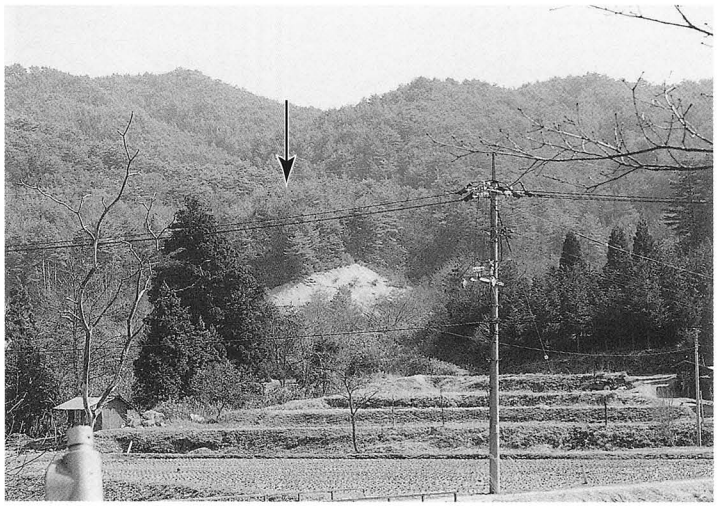
同左遠景

矢入古墳群（4号墳）



同左遠景

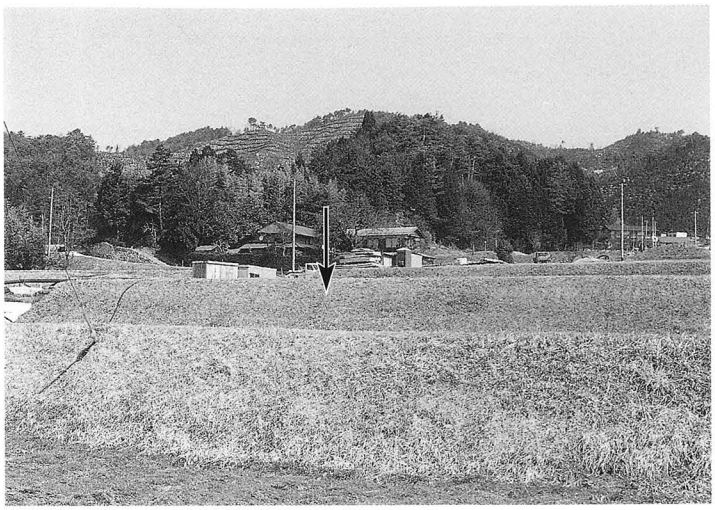
観音原横穴墓群の開口状況



同左遠景

PL 2

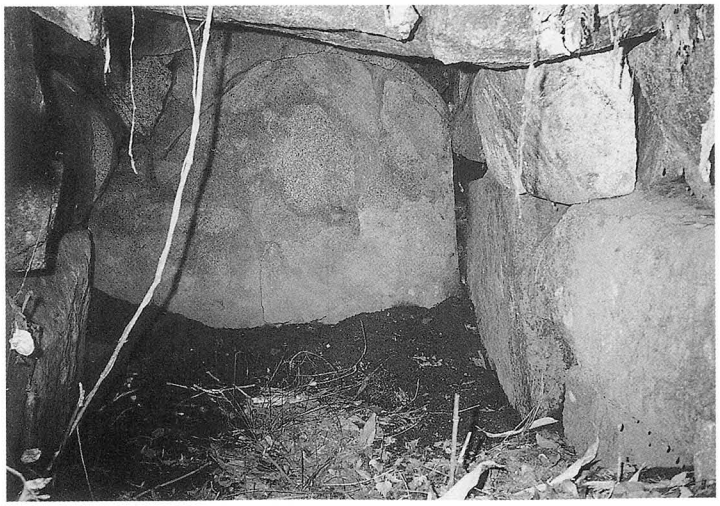
亀井古墳



同左遠景

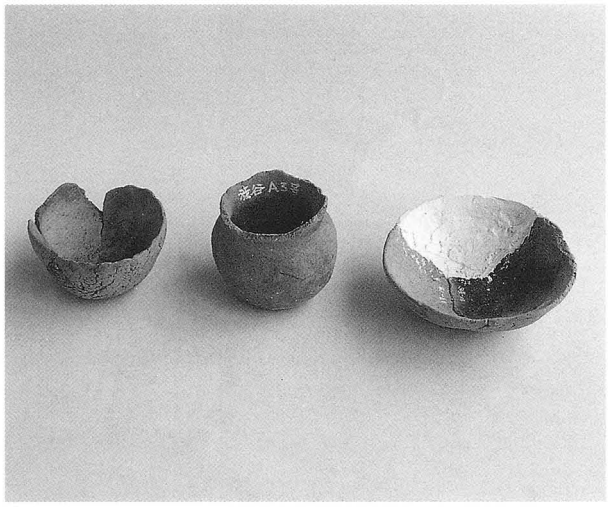
上市古墳

同左遠景



反保家ノ上古墳

同左遠景

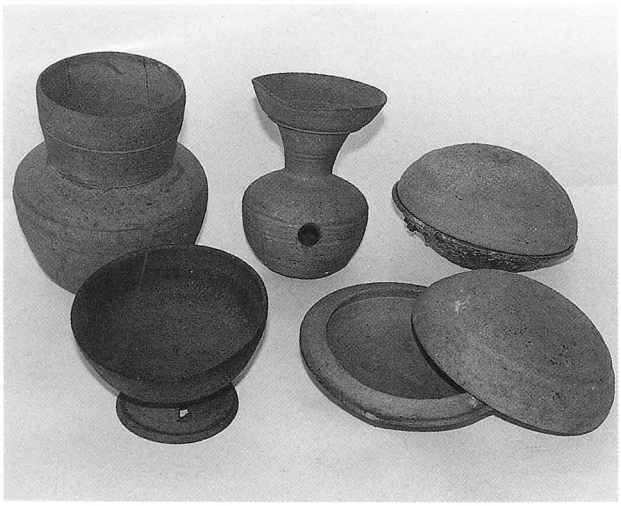


渋谷遺跡出土遺物

同左

袋尻古墳出土遺物

渋谷ルナ林遺跡出土遺物



矢入 2 号墳出土遺物

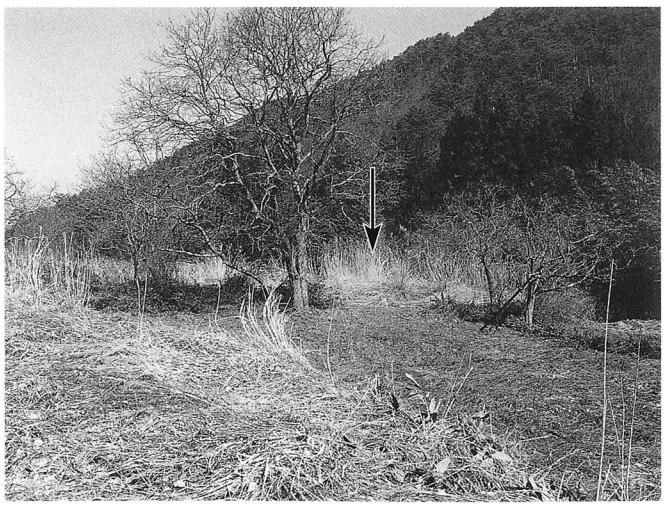
板敷白根垣内横穴墓出土遺物

PL 4

大峠Ⅰ鈩跡発掘状況

板敷日向山鈩跡

同左金屋子祠



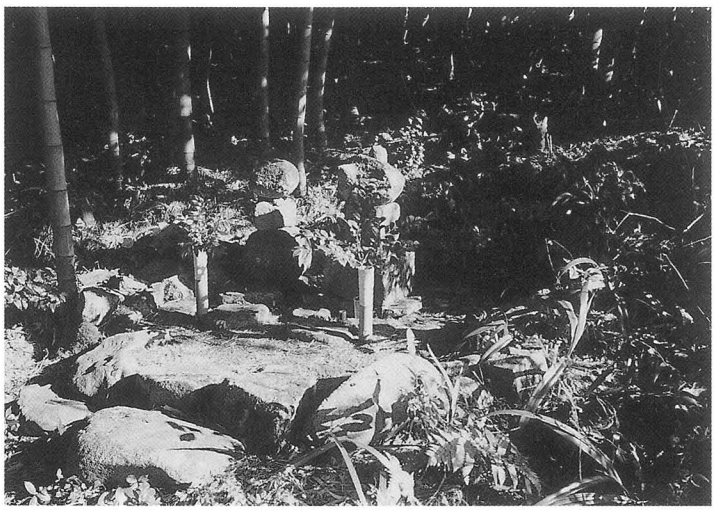
福禄寿鈩跡

矢入Ⅰ鍛冶屋跡

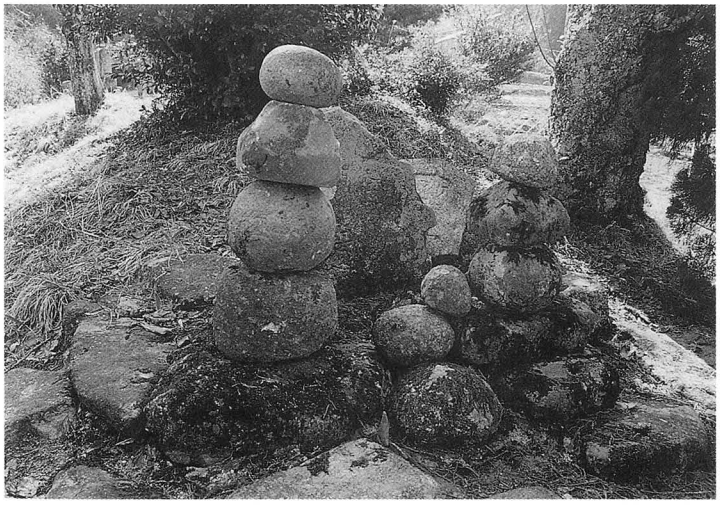
木屋谷五輪塔

板敷宝篋印塔

上市石ノ峠古墓



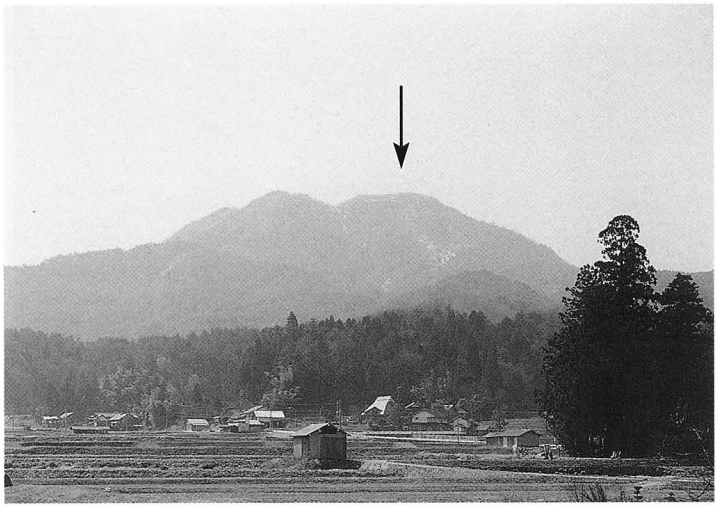
岩田山古墓群



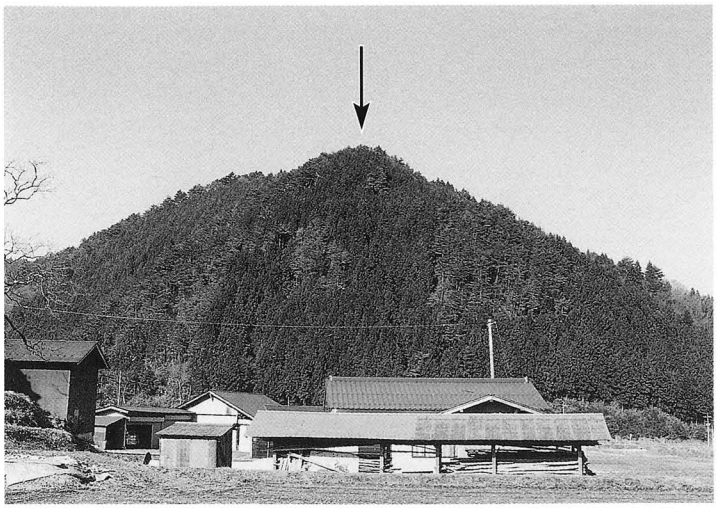
足立宅横古墓

鉄師杜家古墓

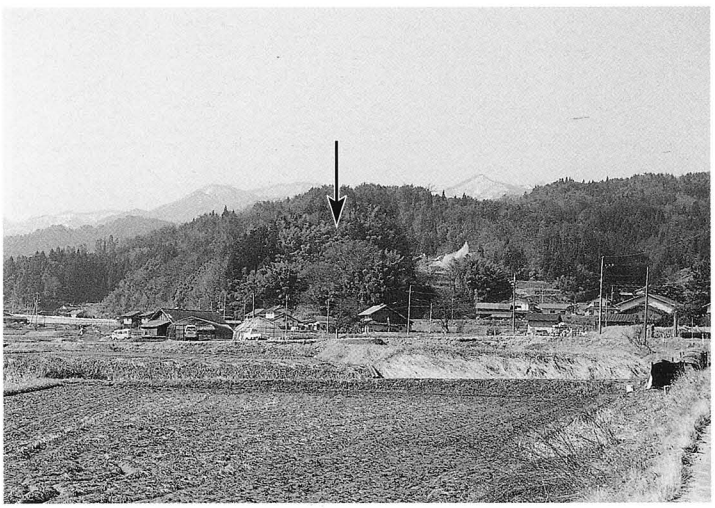
PL 6



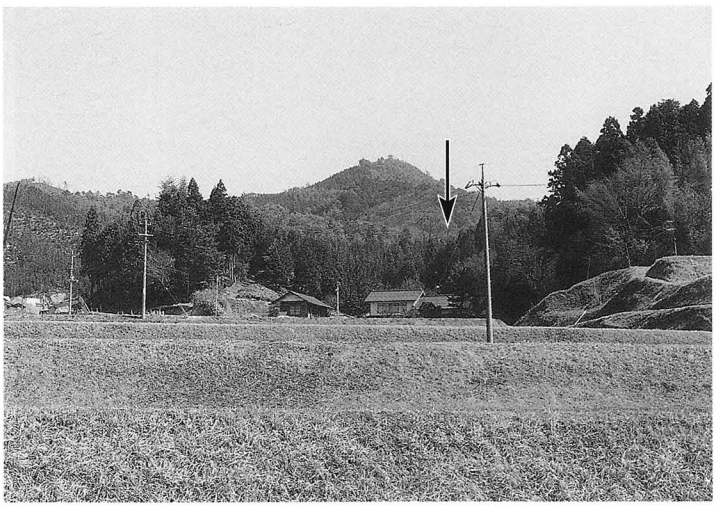
夕景城跡（北より）



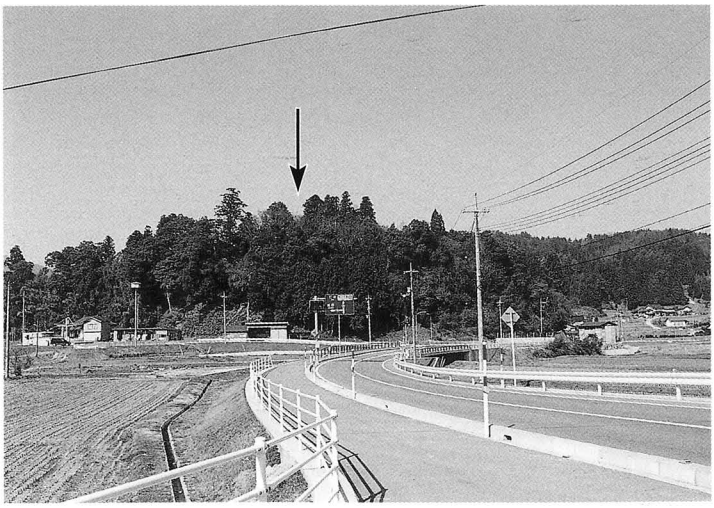
甲斐平城跡（東より）



小林城跡（東より）



亀井城跡（南より）



小馬木八幡宮砦跡（東より）

渋谷砦跡（北より）

詳細分布調査報告書

横田町の遺跡Ⅳ

—馬木地区—

２００１．３

編集発行　島根県横田町教育委員会

印　　刷　株式会社　報　光　社